

V 報告 「神戸市みどりの基本計画」の改定（案）について

「神戸市みどりの基本計画」の改定（案）について

1. 計画改定の趣旨

「神戸市みどりの基本計画」は、都市緑地法に基づく計画であり、「神戸市総合基本計画」のみどりに関する部門別計画として、緑地の保全や緑化の推進、都市公園の整備などに関して、基本理念やみどりの将来像、施策、目標などを示している。

現計画である「神戸市緑の基本計画（グリーンコウベ21プラン）」（2000年策定、2011年改定）が目標年次を迎えたことから、関連計画である「KOBEパークリノベーション（2018年）」や「大規模公園ビジョン（2021年）」を集約し、社会経済情勢の変化等を反映した上で改定を行う。

2. 目標年次

目標年次：2050年

3. 改定の概要

基本理念や将来像等を示した「本編」と、詳細な施策等を示した「施策編」の2部構成とする。

○基本理念

現計画の理念を受け継ぎ、「緑とともに生き続ける都市＝緑生都市」とする。

○みどりの将来像

「里地里山・森林」 | 資源を循環させながら適切に管理し、みどりを受け継ぐ。

「ニュータウンを含む郊外部」 | 緑と住環境の共存を目指す。

「既成市街地」 | 緑の高質化や緑化を推進し、みどりの魅力を高める。

「ウォーターフロント」 | 新たなにぎわいや緑の創出を進める。

○施策の展開

「里地里山・森林の保全・育成・活用」「まちの緑や公園・街路樹の有効活用」「多様な主体とともにみどりを支える」の3つの観点に基づき施策を展開する。

◇里地里山・森林の保全・育成・活用

（里地里山・森林の保全育成と適切な管理、循環型の里地里山・森林の再生等）

◇まちの緑や公園・街路樹の有効活用

（公園施設の適切な保全と更新、公園の魅力向上、街路樹等の適正化等）

◇多様な主体とともにみどりを支える

（みどりに関わる機会づくり、活動につながる仕組みづくり、多様な主体で支える等）

4. 今後のスケジュール

2025年12月19日

～2026年1月20日 市民意見の募集

2026年4月1日 「神戸市みどりの基本計画」の改定（予定）

神戸市みどりの基本計画 2050（素案）

2026年●月改定

目次

序章 はじめに	3
0.1 みどりの基本計画とは	3
0.2 計画改定の背景と目的	3
0.3 計画の構成	3
0.4 計画期間と目標年次	3
0.5 計画の位置づけ	4
0.6 計画における「みどり」	4
0.7 みどりの効果	5
第1章 計画の基本理念と将来像	6
1.1 計画の基本理念	6
1.2 神戸のみどりの将来像	6
第2章 神戸市の概況	9
2.1 神戸の自然やまちの特徴	9
2.2 神戸の緑の現状	11
2.3 神戸の緑の特徴	15
第3章 課題と今後のみどりへの展望	16
3.1 課題と今後のみどりへの展望	16
第4章 施策の展開	20
4.1 里地里山・森林の保全・育成・活用に取り組みます	20
4.2 まちの緑や公園・街路樹を有効に活用します	21
4.3 多様な主体とともにみどりを支えます	25
第5章 計画の目標とみどりへのかかわり方	27
5.1 計画の目標	27
5.2 みどりへのかかわり方	29
第6章 計画の見直しと改善	31
参考資料 用語解説	32

序章 はじめに

0.1 みどりの基本計画とは

- ・「みどりの基本計画」は、都市緑地法第4条に基づく計画です。
- ・「神戸市みどりの基本計画」（以下、本計画）では、緑地の保全や緑化の推進、都市公園の整備などに関して、基本理念やみどりの将来像、施策、目標などを示します。

0.2 計画改定の背景と目的

- ・神戸市では、2000年に「神戸市緑の基本計画（グリーンコウベ21プラン）」（以下、前計画）を策定し、2011年にみどりをとりまく社会経済情勢の変化を受け、計画を改定しました。
- ・また、前計画の下位計画として、「KOBEパークリノベーション（2018年）」や、「大規模公園ビジョン（2021年）」を策定しました。
- ・2025年に前計画の目標年次を迎えた今、高温常態化などの気候変動や「Well-being（幸福度）」などの新たな価値観、「デジタルトランスフォーメーション（DX）」といった科学技術の進展、更なる人口減少等、社会経済情勢が変化しています。
- ・そこで、これらの社会経済情勢の変化や、緑が持つ多面的な効果を活かしながら、社会の課題を解決していくため、下位計画を集約し、これから25年に向けて「神戸市みどりの基本計画」の改定を行います。

0.3 計画の構成

- ・本計画は、「基本理念」や「将来像」等を示した「本編」と、詳細な「施策」等を示した「施策編」の2部構成とします。

0.4 計画期間と目標年次

- ・計画期間：2026年から2050年までの25年間
- ・目標年次：2050年

0.5 計画の位置づけ

- ・本計画は、神戸市の上位計画である「神戸市総合基本計画」と連携・相互補完する関係であり、神戸市のみどりに関する部門別計画として、他の部門別計画とも連携・整合し、みどりを基軸におきながら、都市づくりや子育てしやすい環境づくりなど、神戸のまちづくりの一翼を担っていきます。

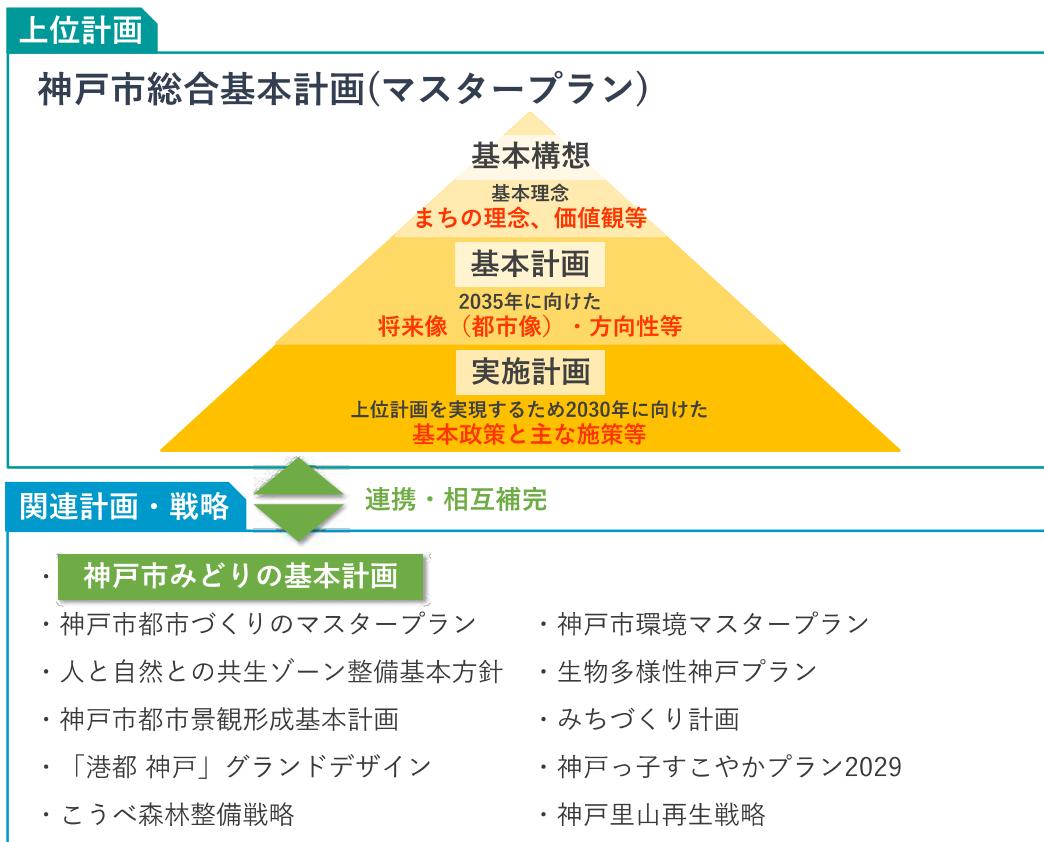
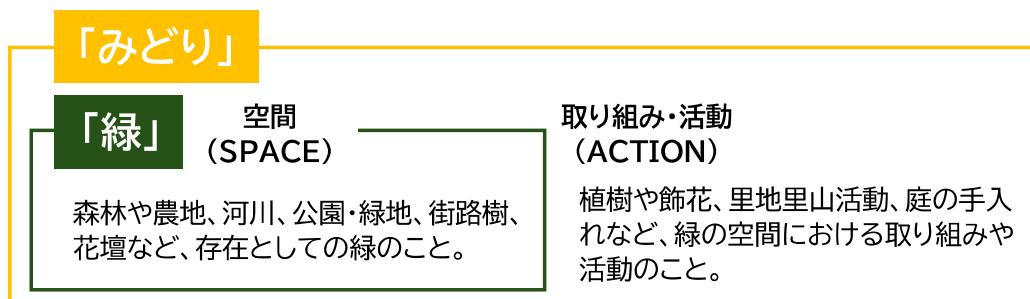


図 0.1 各計画の関係

0.6 計画における「みどり」

- ・「緑」は、一般的には色や樹木等の植物を示す言葉です。本計画では、植物自体や森林、公園・緑地等の緑の空間を示す場合は「緑」と表現し、緑の空間における取り組みや活動を示す場合はひらがなで「みどり」と表現します。



0.7 みどりの効果

- ・みどりが人や他の生物、社会にもたらす効果は様々であり、本計画ではみどりのもたらす効果を3つに分類しました。
- ・1つ目は「空間の効果」で、里地里山や森林、公園・緑地、街路樹などの緑の空間があることで得られる効果です。ヒートアイランドの緩和や生き物の生息空間など、都市環境を形成する効果に加え、遊びの場や避難場所としての利用効果などが挙げられます。
- ・2つ目は「取り組み・活動の効果」で、緑の空間を利用することで得られる効果です。レクリエーション活動や、地域コミュニティの場、市民農園などの活用が挙げられます。
- ・3つ目は「拡がっていく効果」で、緑の空間が存在し、それを利用することで生まれる、社会に拡がっていく効果です。地域への誇りや愛着、コミュニティ形成、にぎわいの創出、健康・福祉の増進などが挙げられます。
- ・なお、1つ目の「空間の効果」から3つ目の「拡がっていく効果」へは一方通行の広がりではなく、地域のコミュニティが緑空間の活用や管理につながるなど、逆方向の広がりもあります。これらの双方向の関係性が強いほど、緑空間とその地域の価値が高まります。

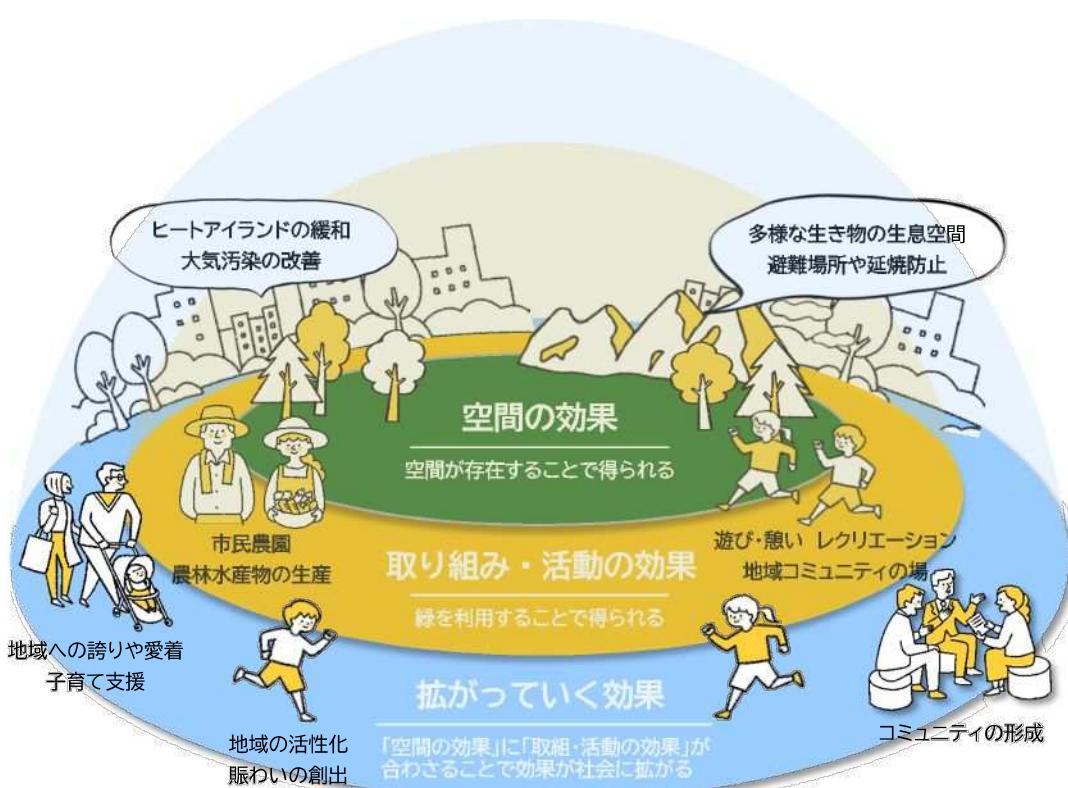


図 0.2 みどりの効果

第1章 計画の基本理念と将来像

1.1 計画の基本理念

- ・本計画では、前計画の基本理念を受け継ぎ、神戸が 50 年、100 年後も、緑豊かで命に満ちあふれた都市であることを目指して、

緑とともに生き続ける都市＝緑生都市

を基本理念とします。

- ・緑生都市とは、緑と人が共生の関係にある都市のことです。緑は人の生活と深く結びついており、人々は豊かな恵みを享受しています。また、人々の暮らしを豊かにする緑は、市民の利用や適切な管理等によって身近な存在となります。
- ・前計画を定めた 2000 年から、地球温暖化をはじめ、社会経済情勢は変化しています。神戸においても、特に夏場は異常な高温が常態化するなど、緑に求められる効果の重要性が高まっています。このような中、次の 25 年に向けて、緑がもつ多面的な効果を更に活かし、緑と人の共生関係をより強固に築いていく必要があります。
- ・今後も、緑と人が共生する緑生都市の実現のために、郊外部の自然環境や身近な緑を維持・保全し、みどりとの関わりを深め、みどりに親しむ機会を増やす環境づくりに、市民とともに取り組んでいきます。

1.2 神戸のみどりの将来像

- ・神戸は、大阪湾に面した古くからの港町で、都市と里地里山、森林が共存し、豊かな自然を有したまちです。
- ・神戸の公園・緑地の原点は、植林を経て再生された六甲山と日本初の西洋風公園として整備された東遊園地にあります。
- ・その後、戦災復興土地区画整理やニュータウン開発、阪神・淡路大震災後の震災復興等によるまちづくりの中で、公園の整備や緑地の保全・育成・活用を市民とともに進め、緑のネットワークを形成してきました。
- ・これらの取り組みによって育まれた緑を活かしながら、次の 25 年に向けたみどりの将来像を次に示します。



図 1.1 緑の空間構成

表1.1 みどりの将来像

里地里山・森林	人の手によって持続する里地里山や、六甲山をはじめとする森林エリアの保全・育成・活用に向けて、資源を循環させながら適切に管理し、みどりを受け継ぎます。
ニュータウンを含む 郊外部	豊かな自然や緑地などに囲まれた郊外部では、緑と住環境が共生したエリアを目指します。
既成市街地	緑の高質化や緑化を推進し、みどりの魅力を高めたエリアを目指します。神戸の顔となる都心では、更なる緑化を進めます。
ウォーターフロント	貴重な自然環境や歴史・文化を保全しつつ、新たなにぎわいや緑の創出を進めるエリアを目指します。



図 1.2 水と緑のネットワーク



里地里山・森林のエリアイメージ



郊外部のエリアイメージ



既成市街地・都心部のエリアイメージ



ウォーターフロントのエリアイメージ

第2章 神戸市の概況

2.1 神戸の自然やまちの特徴

- ・市域の面積は約 557km² であり、六甲山系によって南北に二分されます。大阪湾に面した南側は、六甲山系からの河川によって形成された平野部や埋立地が続き、北側は丘陵地と播磨平野に連なる平野部から成ります。
- ・神戸は、様々な地質から成り立っています。例えば、六甲山系は風化すると崩れやすい花崗岩で形成され、崩れた砂は保水力が少ない真砂土になります。また、六甲山の西側の須磨地域や北側に分布する神戸層群、西神地域に分布する大阪層群は、粘土質で水はけが悪いため、樹木の生育に大きな影響を与えています。
- ・水系は、六甲山系によって大きく4つに分かれています。六甲山系から大阪湾に注ぐ表六甲水系、明石海峡に注ぐ明石川水系、播磨灘に注ぐ加古川水系、六甲山系の北側から大阪湾に注ぐ武庫川水系からなります。
- ・東灘区から須磨区までの地域では、三宮を中心とする都心や既成市街地など、古くから神戸の市街地を形成してきました。この地域には、神戸市の人口約 149 万人のうち約 51%（約 76 万人）が、約 25%（約 134 km²）の土地に居住しています。また、これらの地域は転入超過の傾向があり、居住者の平均年齢も比較的低くなっています。
- ・一方、北区、垂水区、西区は、新たなまちづくりが行われたニュータウンがあり、人口の約 49%（約 73 万人）が、約 75%（約 423 km²）の土地に居住しています。この地域では、市街化調整区域に「緑地の保全、育成及び市民利用に関する条例」に基づく「みどりの聖域」や「人と自然との共生ゾーンの指定等に関する条例」に基づく人と自然との共生ゾーンが広大に指定され、森林や田園、農地を含む里地里山が保全されています。
- ・市域に約 30km にわたって広がる海岸は、港湾機能や漁業活動の場のほか、須磨海浜公園やアジュール舞子など公園・緑地のレクリエーション機能、ポートアイランドや六甲アイランドなど人工島の居住機能を有しています。また、ウォーターフロントでは、新たなにぎわいの空間を整備しています。

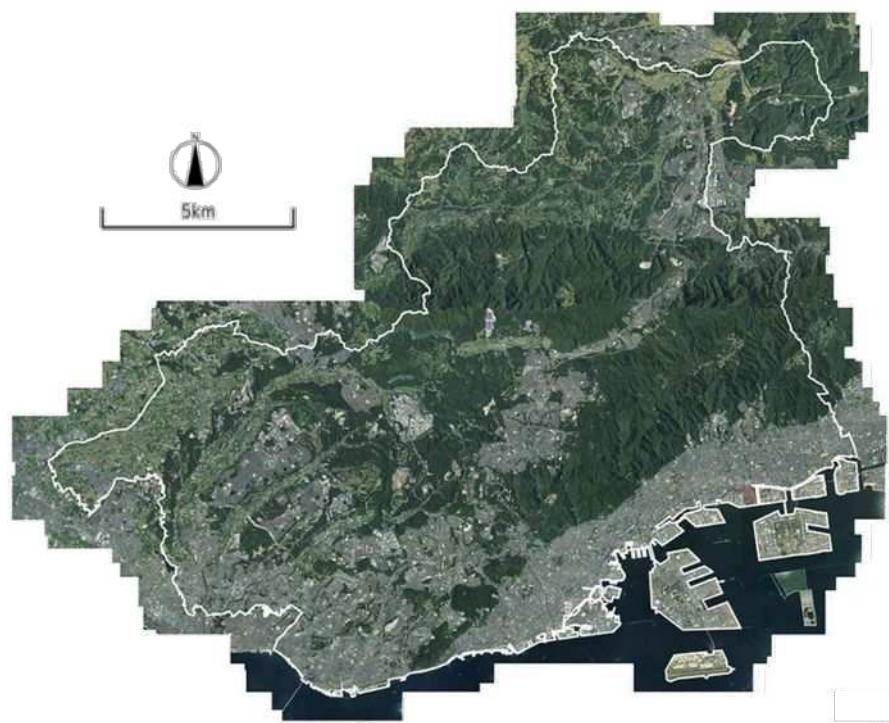
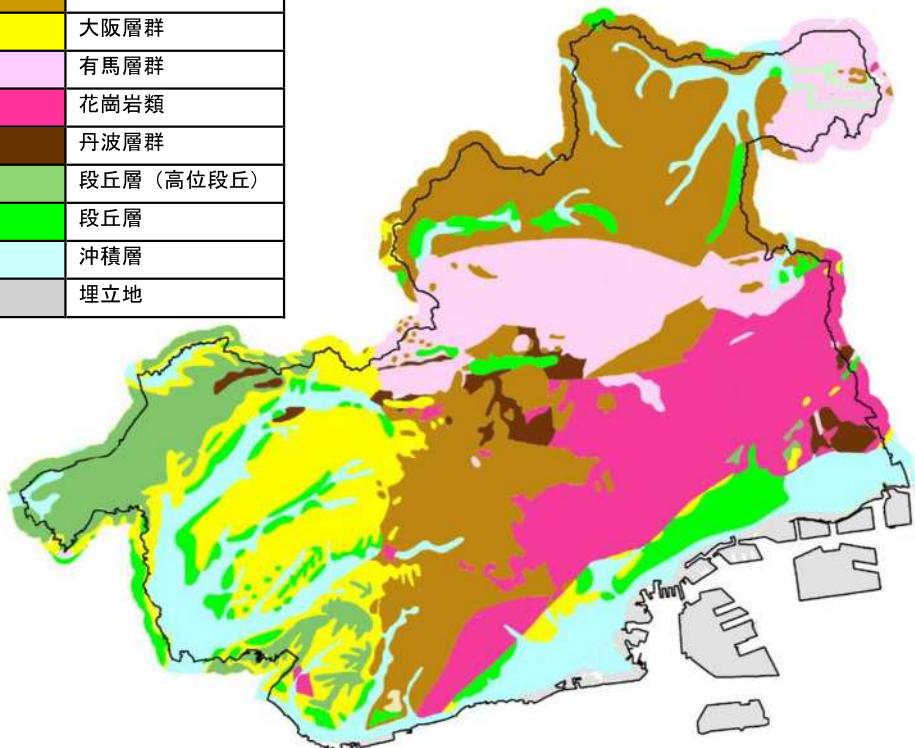


図 2.1 神戸市の概況

神戸層群
大阪層群
有馬層群
花崗岩類
丹波層群
段丘層（高位段丘）
段丘層
沖積層
埋立地



産総研地質調査総合センター、20万分の1日本シームレス地質図V2
(<https://gbank.gsj.jp/seamless/>) を使用し、神戸市が編集したものである。

図 2.2 神戸市の地質分布図

2.2 神戸の緑の現状

(1) 緑被率

●市全域

・市全域では 66.2%、市街化区域で 31.4%、市街化調整区域で 86.6%となっています。

市街化区域の区ごとの緑被率では、北区、須磨区、垂水区、西区で大きくなっています。
既成市街地が広がる東灘区、中央区、兵庫区で小さくなっています。



図 2.3 神戸市全域の緑被分布

表 2.1 区ごとの緑被率 (2024 年) (%)

区	市街化区域 緑被率	市街化調整区域 緑被率	全域緑被率
東灘区	20.4	97.0	43.8
灘 区	25.2	96.8	70.5
中央区	16.7	89.5	38.5
兵庫区	15.3	88.8	41.9
北 区	53.7	93.0	86.2
長田区	25.7	87.0	34.5
須磨区	35.6	89.7	49.4
垂水区	29.2	75.7	31.0
西 区	28.4	69.7	57.8
神戸市	31.4	86.6	66.2

- ・前回までの調査と比較すると、市街化区域の緑被率は現在も30%を超えており、ほぼ横ばいの傾向が続いています。
- ・北区、須磨区、垂水区、西区では、住宅団地の開発等により減少しているものの、今でも30%前後の緑被率があり、特に北区では50%以上が維持されています。
- ・一方、既成市街地である東灘区、灘区、中央区、兵庫区、長田区では、緑被率が増加していますが、これは新たな住宅団地を開発する余地がなく、緑被率の減少が少なかったことに加え、既存の緑が成長したことなどが要因と考えられます。

表2.2 市全域の緑被率の推移 (%)

	区/全域	1995年緑被率	2005年緑被率	2024年緑被率	緑被率の増減 (2024年→2005年)
市街化区域	東灘区	22.9	16.7	20.4	3.7
	灘区	20.1	20.5	25.2	4.7
	中央区	8.2	10.0	16.7	6.7
	兵庫区	11.4	11.8	15.3	3.5
	北区	51.8	55.0	53.7	▲1.3
	長田区	18.3	19.9	25.7	5.8
	須磨区	37.4	39.7	35.6	▲4.1
	垂水区	33.7	37.0	29.2	▲7.8
	西区	38.8	35.6	28.4	▲7.2
	市全域	33.6	32.9	31.4	▲1.5
市街化調整区域	市全域	—	89.2	86.6	▲2.6

●DID（人口集中）地区

- ・DID地区の緑被率は、2024年時点で24.2%となっており、2005年の23.8%からほぼ横ばいとなっています。
- ・区ごとの緑被率を比較すると、東灘区、灘区、中央区、兵庫区、長田区の既成市街地において増加しており、須磨区、垂水区、西区の郊外部で減少しています。これは、既成市街地においては既存の緑が成長したことや、郊外部においては住宅団地の開発等や市街化区域内で街路樹の適正化を進めたことなどが要因と考えられます。

表2.3 DID 地区の緑被率の推移

	2005年 緑被率	2024年 緑被率	緑被率の変化 (2005年→2024年)
DID地区内の緑被面積 (ha)	3516.6	3578.1	
DID地区内の緑被率	23.8%	24.2%	+0.4

※DID地区の区域面積はGIS計測値

※2005年時のDID地区で比較

表2.4 DID地区の区ごとの緑被率の推移 (%)

	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区	神戸市
2005年緑被率	15.4	15.9	10.2	10.6	38.0	17.0	33.2	27.0	30.5	23.8
2024年緑被率	19.2	21.5	15.2	14.2	42.6	23.1	29.3	22.4	23.1	24.2
DID地区内の 緑被率の変化 (2005年→2024年)	+3.8	+5.6	+5.0	+3.6	+4.6	+6.1	-3.9	-4.6	-7.4	+0.4

●道路区域

- 直接的に緑の効果が得られる場所として、道路区域での緑被率を算出しています。
- 道路区域の緑被率は2024年時点で21.4%となっています。
- 区ごとの道路区域の全市緑被率では、北区が40.5%と最も多く、最も少いのは垂水区の6.0%となっています。市街地部分については概ね10~20%程度となっており、特に垂水区のような道路幅員の狭い区で、低くなっています。
- 市街化区域内の道路区域の緑被率は、灘区、中央区、兵庫区、北区、西区といった、山間部や郊外に道路のある区で、全市緑被率に比べて大幅に減少しています。

表2.5 道路区域の緑被率の推移

	市全域における 2024年緑被率	市街化区域における 2024年緑被率
道路区域の緑被面積 (ha)	824.6	433.8
道路区域面積 (ha)	3847.5	2973.0
道路区内の緑被率	21.4%	14.6%

※神戸市が管理する道路より算出

※2024年時の道路区域で比較

表2.6 道路区域の区ごとの緑被率の推移 (2024年) (%)

	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区	神戸市
全市緑被率	15.1	22.7	18.9	12.4	40.5	10.1	11.7	6.0	17.2	21.4
市街化区域緑被率	14.4	13.0	14.8	8.7	28.7	9.8	11.2	5.9	11.2	14.6

●六甲山南麓

- 六甲山以南の既成市街地では、六甲山に近いエリアでは緑被率が高く、海側へ向かうほど低くなる傾向があるため、低い地域での緑化対策が必要となります。

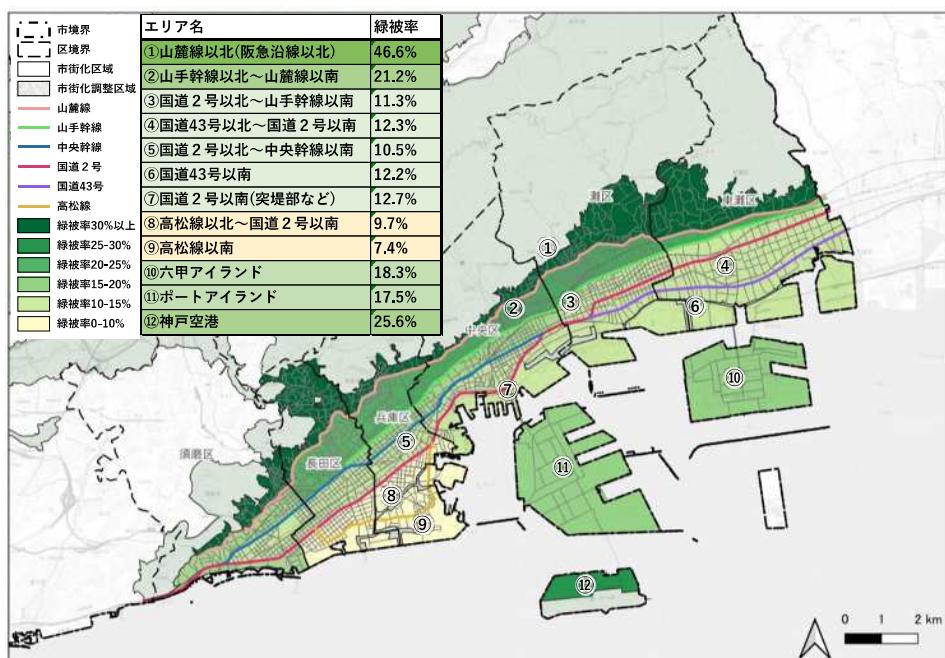


図2.4 六甲山以南のエリア別の緑被率 (市街化区域)

(2) 公園

- ・神戸市の一人当たりの公園面積は17.70m²と他の政令指定都市と比較しても高い水準となっています。暮らしに身近な住区基幹公園を区ごとで比較すると、住宅団地など計画的に公園・緑地が整備された北区や西区で一人当たりの公園面積が多く、密集した土地利用の東灘区や灘区、長田区では少なくなっています。

表2.7 区ごとの公園面積(2024年度末)

種別 区別	人口 (人) 2024.10.1	住区基幹公園 (街区、近隣、地区)			その他の公園等		全体		1人当たり 公園面積 (m ² /人)
		箇所数 (箇所)	面積 (ha)	1人当たり 公園面積 (m ² /人)	箇所数 (箇所)	面積 (ha)	箇所数 (箇所)	面積 (ha)	
東灘区	210,191	171	52.3314	2.49	175	1,980.19			
灘区	135,956	84	29.7125	2.19					
中央区	149,596	66	46.1683	3.09					
兵庫区	110,077	72	33.4784	3.04					
北区	204,110	314	134.7418	6.60					
長田区	92,516	88	24.7185	2.67					
須磨区	153,535	160	87.3067	5.69					
垂水区	206,384	270	73.6972	3.57					
西区	229,917	299	179.5656	7.81					
合計	1,492,282	1,524	661.7205	4.43					

(3) まとめ

- ・郊外部では、緑被率はわずかに減少しているものの、六甲山をはじめとする山々の緑や、農業等の営みにより緑被率が担保され、規模の大きな公園も確保されています。
- ・一方、既成市街地では、緑被率は増えているものの、既に土地利用がされていることにより、公園整備などの公有地の拡大は困難であり、大幅な緑の創出は難しい状況です。
- ・これらを踏まえ、公園・緑地や森林等の公有地の緑は適切に管理していくとともに、都心やウォーターフロント等の面向的な再開発に際しては、新たな緑を創出していく必要があります。
- ・郊外部の里地里山・森林や既成市街地の社寺林等の民有地の緑は、所有者と協力して適切に保全や管理をしていくとともに、市街地における民有地では更なる緑化の促進が重要になります。
- ・行政はこれらの取り組みを持続的にサポートしながら、市民が緑に触れる機会の平等化を進めていく必要があります。

2.3 神戸の緑の特徴

- ・神戸の緑の特徴は、地形や市街地の形成過程により、以下の5つに分類できます。

里地里山・森林

- ・郊外部に広がり人々の営みによって維持される、田園や農地を含む里地里山
- ・神戸を代表する六甲山系をはじめ、帝釈・丹生山系や雄岡山・雌岡山などの山や森林



ニュータウンを含む郊外部

- ・住宅地とともに計画的に配置された公園・緑地や街路樹、住宅敷地内の豊かな緑



既成市街地

- ・まとまった緑は少ないものの、古くから市街地の形成に合わせて、市民の生活とともに育まれてきた緑地や公園・街路樹等
- ・にぎわいの中心で、来街者を迎える、神戸の顔となる高質な都心の緑



ウォーターフロント

- ・これまで限られた場所にしか緑がなかったが、新たにぎわいの創出など、再開発が進むウォーターフロントの緑



第3章 課題と今後のみどりへの展望

3.1 課題と今後のみどりへの展望

- ・緑と人が共生する緑生都市の実現に向けて、以下のような課題に対して、みどりへの展望を踏まえながら対応していく必要があります。

(1) 地球温暖化

●近年、地球温暖化が進行し、温室効果ガスの排出量と吸収量の均衡を図ることで、カーボンニュートラルの実現が求められています。

神戸においても、温室効果ガスの吸収源となる里地里山・森林や、公園・緑地などの緑を保全し、都市環境を改善していく取り組みが必要です。

【課題】

- ・都市化の進展により減少する緑
- ・放置された里地里山・森林と活用されていない伐採材
- ・不足している管理の担い手

【今後のみどりへの展望】

- ・法律や条例等に基づく緑の保全・育成
- ・適切な管理による里地里山・森林の再生と資源循環の推進
- ・みどりに関する学びを通じた人材の発掘と管理技術の向上

⇒このような取り組みにより、豊かな緑に包まれた、地球環境にやさしいまちづくりを目指します。

(2) 都市部における高温常態化

●都市化に伴う都市部の気温上昇により、特に夏場において、異常な高温が常態化しています。

神戸市では、山から海へと続く水と緑のネットワーク形成などの面的な取り組みのほか、緑の機能を活かした緑陰効果の最大化や、ベランダ緑化、壁面緑化など、行政をはじめ市民や企業等の取り組みも重要です。

【課題】

- ・公園・緑地のネットワーク形成の更なる充実
- ・都市部における緑陰を形成する樹木の量および質の向上
- ・緑化に対する市民意識の醸成

【今後のみどりへの展望】

- ・水と緑のネットワーク強化による、快適に歩けるまちづくり
- ・樹木の植栽や、樹木が生育しやすい土壤環境づくり、樹冠の拡大による緑陰の最大化
- ・緑化事例や、緑と暮らす心地よさの周知

⇒このような取り組みにより、緑豊かで快適な都市環境づくりを目指します。

(3) 生物多様性

●人々の暮らしは、生態系による恩恵に支えられていますが、現在、各地で生物多様性が減少しています。

様々な生物と共生するネイチャーポジティブの実現に向けて、地産地消などを通じた里地里山・森林での営みの維持とともに、生き物の生息空間の保全や、外来生物の侵入・定着の防止が求められるほか、多くの人が里地里山・森林に関わりを持ち、活動を支える取り組みが必要です。

【課題】

- ・農地の減少や遊休農地の増加
- ・里地里山や森林と市民との関わりや接点の不足
- ・外来生物の侵入や定着
- ・里地里山・森林の多様な機能の保全

【今後のみどりへの展望】

- ・市民農園など、農地に親しむ場の創出
- ・農村定住の推進など、里地里山や森林に関わる人や機会の充実
- ・外来生物防除の取り組みの推進
- ・資源が循環する持続可能な管理の構築

⇒このような取り組みにより、健全な里地里山・森林が持続的に維持され、様々な生物と共生するまちづくりを目指します。

(4) Well-being(幸福度)

●Well-being とは、個人においては、一人ひとりが心身ともに満たされた状態であること、社会においては、経済や環境などの様々な要素が豊かになることを表す指標です。

個人や社会の Well-being を高めていくためには、Well-being を測る指標の一つである緑空間の充実や、オープンスペースの利活用を促進することが重要です。

神戸においても、様々な緑の質を高め、緑に触れやすく、活動しやすい環境づくりなど、緑を身近に感じ、満足感を得られる取り組みが必要です。

【課題】

- ・管理の行き届いていない緑空間
- ・魅力の乏しい公園の増加
- ・みどりに関する情報発信の不足
- ・みどりの活動への参加のハードル

【今後のみどりへの展望】

- ・新たな技術も取り入れた、効率的で高品質な緑空間の管理運営
- ・多様なニーズに対応した整備や多様な主体のノウハウを活かした公園の魅力向上
- ・様々な媒体によるみどりの情報発信・共有と、気軽に参加できる活動内容の充実

⇒このような取り組みにより、質の高い緑にあふれ、魅力的な緑の空間を身近に感じられるまちづくりを目指します。

(5) 少子高齢化

●現在の日本では価値観や働き方など、ライフスタイルが多様化するとともに、少子高齢化が進行し、人口減少が進んでいます。

これからの中戸においても、子どもから大人まで、また障がいの有無にかかわらず、様々な人が生活しやすい環境づくりを進めるとともに、地域コミュニティを強化していく取り組みが必要です。

【課題】

- ・利用頻度が低い公園等の活用
- ・ルールが多く、遊びにくいイメージがある公園
- ・ニーズに対応していない遊具等の公園施設
- ・既存のボランティア団体の高齢化

【今後のみどりへの展望】

- ・公園施設の適正化や、新たな活用方法の検討
- ・地域とつくる公園利用ルールなど、外遊びしやすい環境の整備
- ・地域のニーズを反映した施設改修の実施
- ・気軽に参加できる活動内容の充実や、民間事業者等との連携

⇒このような取り組みにより、誰もがみどりを楽しみ、みどりを通じて交流ができるまちづくりを目指します。

(6) 防災・減災

●近年、気候変動により自然災害が激甚化するとともに、南海トラフ地震などの巨大地震の発生確率が高まっているといわれています。

中戸においても、自然災害を最小限に留め、緑が災害の原因となるよう、適切な管理による防災・減災対策や災害に強い森づくり、グリーンインフラの視点を活かした雨水流出抑制、災害時の避難場所となる機能の拡充や、緊急時に備えた平時からの備えが重要です。

【課題】

- ・市内に広く分布する土砂災害特別警戒区域などにおける災害リスクの増大
- ・樹木が手入れされておらず、倒木等により不安定となった法面からの土砂流出
- ・激甚化する集中豪雨等への対策

【今後のみどりへの展望】

- ・治山砂防事業やグリーンベルト整備事業など、災害に強い森づくりの推進
- ・適切な森林の管理による、健全な森林環境の形成
- ・グリーンインフラを取り入れた、雨水流出抑制などの防災・減災機能の強化

⇒このような取り組みにより、緑が持つ多様な機能を活かした災害に強いまちづくりを目指します。

(7) 公園施設の老朽化、公園樹・街路樹の老木化

●神戸では、1971年に始まった「グリーンコウベ作戦」により、公園・緑地の整備や街路樹の植樹など、市街地の緑を増やす取り組みを進めてきました。

一方、整備から40年以上が経過した公園・緑地や街路樹が増加し、公園施設の老朽化や公園樹・街路樹の大木化、老木化が進み、更新の時期を迎えています。

市民が安全に公園・緑地を利用できるよう、効果的・効率的に公園施設の改築更新を行うとともに、歴史的・文化的な資産である樹木の保全を進める一方、大木化・老木化して危険性の高い樹木は適切な伐採と更新が必要です。

【課題】

- ・老朽化した公園施設による危険性の増大
- ・大木化・老木化した樹木の増加による事故リスクの増大

【今後のみどりへの展望】

- ・老朽化した公園施設の計画的な改築更新による安全性の向上
- ・大木化・老木化した樹木の適切な保全と伐採および更新

⇒このような取り組みにより、安全・安心で快適な緑空間づくりを目指します。

(8) 市街地や郊外部の人、団体、企業など多様な主体によるみどりの取り組み

●みどりに対する社会的な関心が高まる中、みどりに関心を持つ主体は、市街地や郊外部に住む市民をはじめ、企業やNPOなどにも広がり、多様化しています。

これまで活動してきた個人や団体等の取り組みを継続的にサポートするとともに、多様な主体と連携し、ノウハウなどを活かしながら、神戸のみどりの魅力を高めていく取り組みが必要です。

【課題】

- ・みどりの魅力や取り組みに関する情報発信の不足
- ・多様な主体と連携していく仕組みの不足
- ・行政との連携や協働に対するハードル

【今後のみどりへの展望】

- ・神戸のみどりの情報発信や共有による、知る機会の増加
- ・多様な主体がみどりの活動に参加できる場や仕組みなどの環境づくり
- ・様々な企業や団体等が気軽に協働できるメニューの充実

⇒このような取り組みにより、神戸のみどりに関わる多くの人との協働を目指します。

第4章 施策の展開

- ・前章で挙げた課題や今後のみどりへの展望を踏まえ、3つの観点に基づき施策を展開していきます。
- ・なお、施策の具体的な内容については、「施策編」に記載します。

4.1 里地里山・森林の保全・育成・活用に取り組みます

●郊外部に広がる里地里山や、六甲山系、帝釈・丹生山系などの森林を保全・育成・活用し、市民のくらしや自然環境、美しい景観を守ります。

【具体例】

(里地里山・森林の保全・育成と適切な管理)

- ・六甲山系や帝釈・丹生山系などで緑の法令・条例に基づく適切な森林の管理を行い、快適な緑地として保全・育成します。
- ・都市緑地法に基づく特別緑地保全地区において、緑地の機能を維持増進するため、適切な保全とともに、計画的な樹木の更新に取り組みます。
- ・カーボンクレジットの創出により、里地里山・森林の価値を高めます。

(災害に強い森づくりの推進)

- ・治山砂防事業やグリーンベルト整備事業など、災害に強い森づくりを推進します。

(森林レクリエーション環境の充実)

- ・登山等の森林レクリエーションの魅力を高め、安全な登山道等を整備します。

(循環型の里地里山・森林の再生と都市農村交流の環境づくり)

- ・里山・森林の樹木を適切に伐採・更新し、伐採材を資源として活用する循環的な利用によって、健全な里地里山・森林を維持します。
- ・多様な主体による参画や人材育成など、里地里山・森林に関わる人を増やします。
- ・農村地域の空き家を活用した里山暮らしの推進などに取り組みます。
- ・里地里山・森林を健全な状態にすることで、水を貯える水源かん養や生物多様性の維持といった多様な機能を保ちます。
- ・樹木の病害虫や外来生物について、適切に防除し拡大を防ぎます。



再度山



登山道の整備

4.2 まちの緑や公園・街路樹を有効に活用します

- ニュータウンを含む郊外部では、周辺に広がる六甲山系等の自然環境を活かし、メリハリをつけた緑の管理を行います。

【具体例】

(メリハリをつけた緑の管理)

- ・郊外部の緑豊かな地域では、地域の歴史・文化の象徴である社寺林等を適切に保全するとともに、景観や歴史性、緑の機能に留意し、街路樹等の樹木の適正化を図るなど、メリハリをつけた緑の管理を行います。

- まとまった緑が少ない既成市街地では、既存の緑を適切に保全・育成しながら、緑化を推進します。まちのにぎわいの中心となり、神戸の顔となる都心部では、緑の魅力を高めます。

【具体例】

(水と緑のネットワークづくり)

- ・公園・緑地など拠点となる空間と、それらをつなぐ河川沿いの公園・緑地で形成される河川緑地軸や、街路樹等による街路緑地軸を適切に保全・育成することにより、水と緑のネットワークを強化します。

(緑の保全・育成と緑化推進)

- ・災害時の道路安全確保や雨水貯留など、緑の多様な機能を活かした整備を進めます。
- ・六甲山南麓の既成市街地では、緑被率の少ない都心部や海側の地域において緑化を進めます。
- ・高温常態化対策に有効なまちの緑を増やすため、土壤改良による樹木の生長促進や、新たな樹木の植栽により、まちの木陰を増やします。あわせて、保水性舗装といった熱がこもりにくい舗装なども活用し、人や樹木に優しい快適な環境を創出します。
- ・地域の歴史的・文化的な資産となる大木や社寺林等を保全します。
- ・市民公園制度や市民緑地認定制度、まちなか活用空地制度等により、民有地を活用したオープンスペースを創出します。
- ・壁面緑化や屋上緑化を効果的に整備・誘導し、緑豊かなまちなみ景観の形成を目指します。条例に基づく緑化の他、民間事業者等が緑化を推進できる環境づくりに努めます。

(都心部の魅力向上)

- ・来街者の多い都心三宮などを中心に、回遊性を高めるための緑陰空間の形成や、みどりと花のブランディングの取り組みである「Living Nature Kobe」を展開するなど、都心の緑の魅力を高めます。



都心・三宮再整備の将来像イメージ

●ウォーターフロントの貴重な自然環境や歴史・文化を保全しつつ、新たにぎわいや緑を創出します。

【具体例】

(ウォーターフロントの魅力向上)

- ・ウォーターフロントに新たな緑を創出し、緑をネットワーク化することで、居心地がよく、海と自然が感じられる空間を目指します。
- ・須磨海岸や舞子海岸では、美しい松林や砂浜を保全し、白砂青松の景観を維持します。
- ・ポートアイランドでは、中央緑地軸を強化するなど緑豊かな滞在空間を創出します。



ウォーターフロントの将来像イメージ

●安全・安心で、何度も行きたくなる魅力的な公園・緑地をつくります。

【具体例】

(公園施設の適切な保全と更新)

- ・老朽化した公園施設は、老朽度合いや公園施設長寿命化計画、建築物保全計画等に基づき、適切に改築更新を実施します。改築更新にあたっては、地域のニーズなどを確認しながら、より魅力的な施設となるよう整備を行います。

(誰もが使いやすい公園の整備)

- ・公園施設のバリアフリー化や、インクルーシブ遊具の導入、健康増進に資する施設の整備など、誰もが使いやすい公園となるよう整備を進めます。

(身近な公園や大規模公園の魅力向上)

- ・地域の拠点となる公園や大規模公園の整備においては、社会経済情勢の変化や多様なニーズ、まちづくりの視点や公園・地域の価値向上といった様々な観点から施設整備を行い、魅力向上に取り組みます。
- ・にぎわい創出や観光集客の拠点となる公園については、民間事業者のノウハウを取り入れながら公園づくりを進めます。
- ・身近な公園の整備にあたっては、一時避難地としての防災機能を考慮し、歩いて行ける公園・緑地の確保を目指します。
- ・利用頻度が低下した公園・緑地等の活用方法を検討します。
- ・新たな技術も取り入れながら、効率的な公園・緑地等の管理運営を進めます。
- ・長期にわたり整備が出来ていない都市計画公園は、適宜見直しを図ります。



インクルーシブ遊具（御影公園）



大規模施設の改修（ユニバー記念競技場）



王子公園再整備の将来像イメージ

●街路樹や公園樹による緑豊かで風格のあるまちなみをつくります。

【具体例】

(街路樹等の適正化)

- ・大木化・老木化や、周辺の緑との重複や過密化、交通の支障、生育不良など、安全や景観上の問題が生じている街路樹や、道路・民有地に影響を及ぼす公園樹については、伐採を行います。

(緑の高質化)

- ・緑豊かで風格のあるまちなみの形成や、緑の持つ特徴を活かした高温常態化対策として、人が滞留する場所などを中心に、植樹による木陰づくりを進めます。

(適切な維持管理)

- ・街路樹については、樹種や道路特性に応じた維持管理を行うとともに、包括的な管理を行うことで、植栽帯の環境向上を進めます。
- ・公園・緑地の樹林は、適切に管理、伐採し、安全で快適な樹林環境を目指します。



こうべ木陰プロジェクト



街路樹点検の様子

4.3 多様な主体とともにみどりを支えます

●みどりの活動に参加したくなるきっかけをつくります。

【具体例】

(情報の共有・発信)

- ・神戸のみどりの魅力や取り組みを、SNSなどを使って積極的に情報を発信・共有し、みどりを知る機会を増やします。

(みどりに関わる機会づくり)

- ・気軽にみどりの活動に参加できるボランティアメニューを充実させるなど、里地里山・森林や公園・緑地等に関わる人を増やします。

(子どもや青少年の育成)

- ・公園・緑地の管理や里地里山・森林の保全への意識啓発を図るため、学校等とも連携しながら、公園ミーティングやプレーパーク、こうべ森の学校、市民農園など、みどりと触れ合える場を創出します。

●持続的にみどりの活動ができる仕組みづくりに取り組みます。

【具体例】

(持続的な活動につながる仕組みづくり)

- ・多様な主体が公園・緑地等の管理に取り組めるよう、まちの美緑花ボランティア制度などの仕組みを拡充します。
- ・ボランティア活動などみどりに触れる機会を通じて、地域コミュニティの醸成に寄与し、継続的な活動につなげます。
- ・公園の利用ルールを地域と一緒につくり、子どもが外遊びしやすい環境をつくります。
- ・申請方法の見直しや広く周知を行うことで、イベント等を開催しやすい公園・緑地の環境づくりに取り組みます。

(みどりに関わる人材の発掘・育成)

- ・里地里山・森林の保全や公園・緑地等を支えていく担い手の発掘・育成を行います。

(多様な主体による資源の循環利用)

- ・里地里山・森林や公園・緑地の管理の過程で発生する伐採材や剪定枝等を活用し、多様な主体による資源の循環が持続的に行える仕組みをつくります。

●多様な主体と連携しながらみどりを支えていきます。

【具体例】

(多様な主体で支える取り組み)

- ・ボランティア活動など、みどりを支えている多様な主体間の交流を促進します。
- ・スポンサー花壇や寄付、社会貢献活動など、多様な主体とみどりを支えます。



ワークショップの様子（神戸縁縁座）



スポンサー花壇（フラワーロード）

第5章 計画の目標とみどりへのかかわり方

5.1 計画の目標

- ・第4章で示した施策を神戸で広く展開し、緑と人が共生する緑生都市の実現に向けて取り組みを進めていきます。これらの取り組みについては、以下の目標および指標によって進捗を管理していきます。

(1) 目標の設定

- ・育んできたみどりを次の25年に継承するため、みどりの量と質に関する目標や、みどりの認知度、みどりを育む機運を醸成するための目標を定めます。
- ・前計画から引き継ぐ指標は継続指標、本計画で新たに定める指標は新規指標とします。

(2) 具体的な目標

① みどりの量の確保と質の向上を目指します

- ・市街地では安全・安心で快適な緑を継続的に確保し、今後も量を維持するとともに、質の向上を目指します。里地里山・森林の民有地では、健全な緑が持続できるよう管理をサポートします。

【継続指標】緑被率の維持

⇒潤いのある市街地を形成するため、市街化区域の緑被率30%以上を確保します。

【継続指標】身近な緑に満足と感じる市民割合の増加

⇒「満足」、「どちらかといえば満足」と回答する市民の割合（2023年時点69.8%）を高めます。

【新規指標】健全な民有地の緑の維持

⇒里山や森林を健全に保全・育成するための助成等を受けて整備している箇所数（2024年時点30箇所）を増やします。

【新規指標】民間事業者等が取り組む緑化の推進

⇒「神戸市建築物等における環境配慮の推進に関する条例」による、壁面や屋上、敷地等の緑化について、年間取り組み件数を維持し、まちの緑化を推進します。（2020年から2024年までの平均件数180件/年）

② みどりの認知度を高めます

- ・みどりに関する取り組みを発信・拡散することで、みどりの認知度を高めます。

【新規指標】神戸市等が管理する SNS のフォロワー数の増加

⇒神戸市や神戸市公園緑化協会等が管理する SNS（インスタグラム等）で、みどりに関する取り組みを発信・拡散し、フォロワーを増やすことで、利用者による情報発信につなげていきます。

（対象とするインスタグラムと 2025 年 10 月時点のフォロワー数）

Living Nature Kobe、神戸総合運動公園、森林植物園

須磨離宮公園、あいな里山公園 計 31,758 人

③ みどりを育む機運を醸成します

- ・「緑に関する活動に参加している市民の割合※1」の結果より、現在活動をしていないものの、「機会があれば参加したい」と回答した人は約 40% に上り、緑に関する活動に高い関心があることがわかりました。

※1 各市民の割合 | 市政アドバイザーへのアンケート調査による数値

- ・このことから、神戸のみどりに触れる機会を増やすことで、みどりに関わる人を広げ、みどりを育む機運を醸成します。

【新規指標】里地里山・森林、公園・緑地での市民との協働

⇒イベントやボランティアの増加など、市民の関わりを増やします。

（2024 年時点の公園における行為許可件数）

行為許可件数 1,344 件

（2024 年時点の里地里山・森林、公園・緑地におけるボランティア団体数）

まちの美緑花ボランティア 691 団体

公園清掃ボランティア 59 団体

登山道等の森守ボランティア 19 団体

5.2 みどりへのかかわり方

- ・本計画の目標を達成していくため、行政が実施する施策と並行して、市民のみどりへのかかわりも広げていく必要があります。
- そのため、「知る」、「触れる」、「深める」という3つのステップで取り組むことで、みどりに対する市民の関わりを広げていきます。
- ・みどりを「知る」ことから始め、「触れる」ことで参画し、活動することでみどりへの関心を「深める」、そして情報の発信者となり、他の誰かの「知る」を生む。こうした取り組みが連鎖し、より大きな広がりが生まれていくことを目指します。
- ・神戸市は、これらのステップが円滑に進められるよう、様々な施策を展開し、みどりに関わる人をサポートしていきます。
- ・こういった取り組みにより、誰もがみどりにかかわれる機会を幅広く創出します。

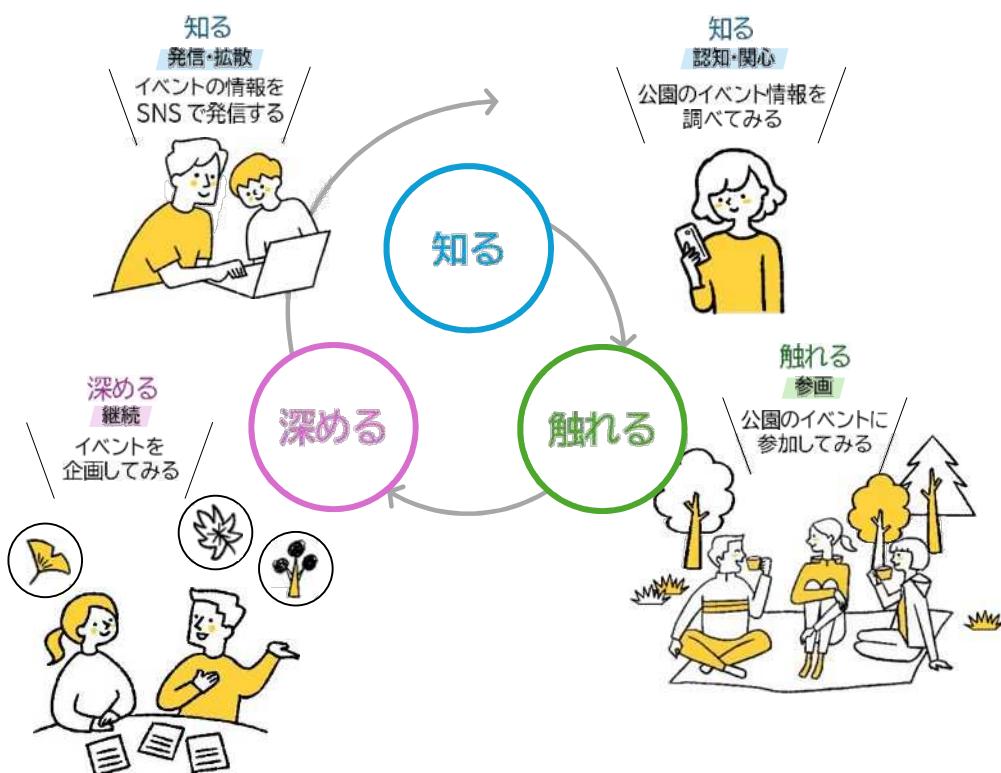


図 4.1 3つのステップの概要図

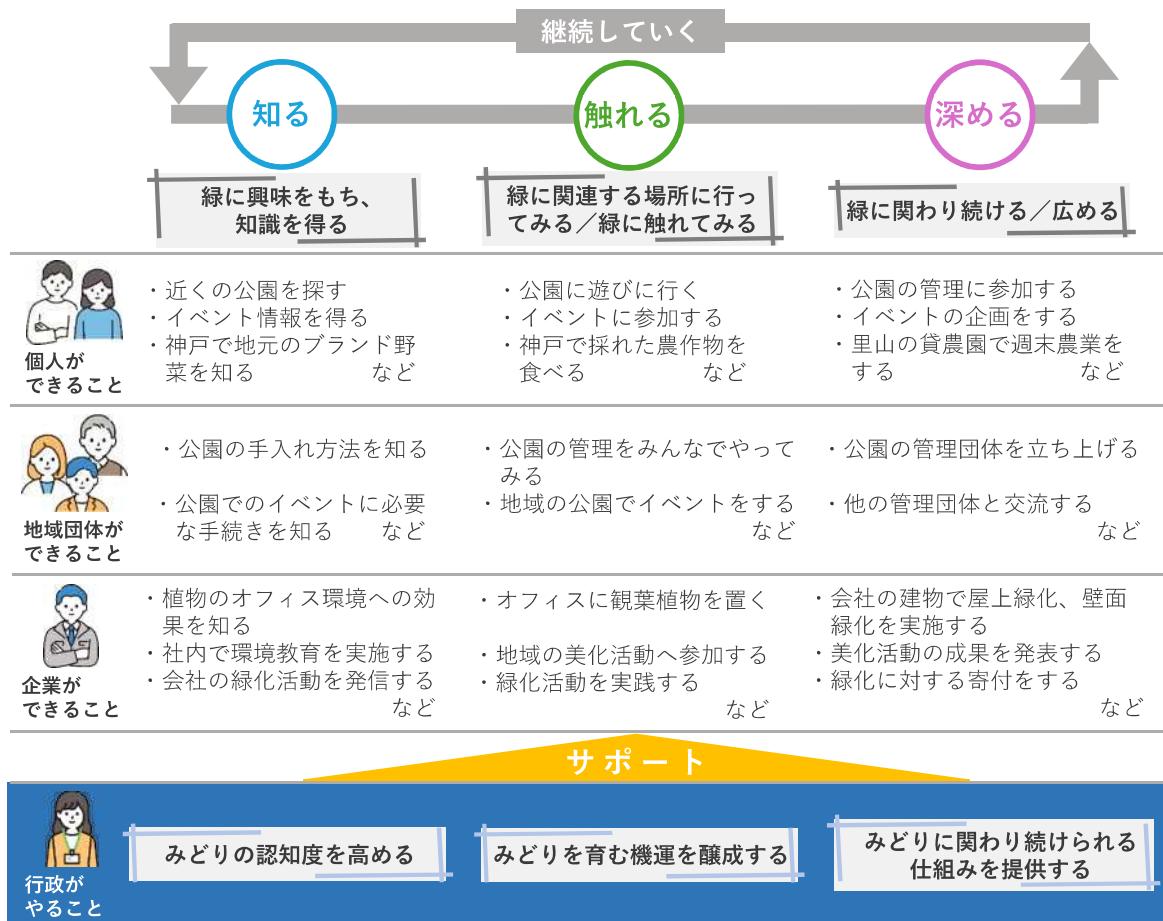
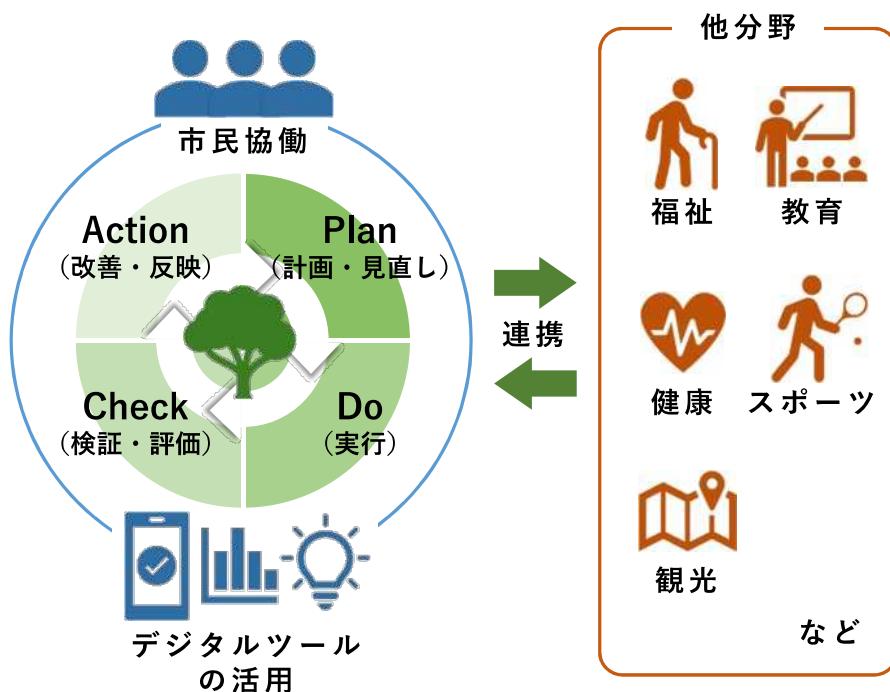


図 4.2 3つのステップの進め方のイメージ図

第6章 計画の見直しと改善

- ・本計画は、目標年次を 2050 年とし、基本理念やみどりの将来像、それに向けた施策の展開などを示すものです。
- ・しかし、みどりを取り巻く社会経済情勢は今後も変化するものと予想されます。そこで、施策の実施状況の評価や、社会経済情勢の変化等を総合的に勘案しながら、10 年を目処に、計画の見直しを図ります。
- ・計画の見直しは、Plan (計画・見直し)、Do (実行)、Check (検証・評価)、Action (改善・反映) の PDCA サイクルに基づいて、市民の意見を反映し、各種の新たなデジタルツールも活用しながら継続的に改善します。また、関連する他分野とも連携しながら、必要に応じて計画に反映していきます。
- ・なお、今後も様々な見地から幅広く意見聴取を行うとともに、広報や情報の発信・共有にも積極的に取り組みます。



参考資料 用語解説

(あ行)

インクルーシブ遊具

障がいの有無、年齢、性別、国籍などに問わらず、誰もが一緒に安全に楽しめるように設計された遊具。

一時避難地

地震や火災などの災害発生時に、身の安全を確保するために一時的に避難する場所。

ウォーターフロント

海や川、湖などの水辺に接する土地の意味であるが、近年では、新たな開発区域として港湾部や臨海部の都市空間を指して使用される。

オープンスペース

公園や広場、河川、湖沼、山林、農地等の建築物によって覆われていない土地の総称。都市内では、建築物の敷地内に確保された開放性の高いまとまった広さの空地や空間で、一般市民が自由に通行又は利用できる場所をいう。

(か行)

カーボンクレジット

二酸化炭素などの温室効果ガス排出量の見通しと実際の排出量の差をクレジットとして認証して取引できるようにしたもの。

カーボンニュートラル

温室効果ガスの「排出量」と「吸収量」を差し引きゼロにすること。

グリーンベルト整備事業

市街地に隣接する山麓斜面などに樹林帯（グリーンベルト）を形成し、土砂災害を防ぎながら、無秩序な市街地拡大を防止し、都市環境や景観を保全する事業。

グリーンインフラ

自然の機能を活用して社会の課題を解決するための社会資本整備の考え方。

公園ミーティング

神戸市内各区で活動する地域コーディネーターが協力して、公園を地域の交流拠点として活かすためのイベント。

公園清掃ボランティア

まちの美化と健全な地域コミュニティの育成を目的に、身近な公共空間である公園・緑地の日常的な清掃等をするために結成されたボランティアグループ。

こうべ森の学校

再度公園と周辺の市有林で森の整備活動をするボランティアグループ。

(さ行)

市街化区域

既に市街地を形成している区域及びおおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域。

市街化調整区域

都市計画法に基づき、無秩序な市街化を防ぎ、自然環境や農地を保全するために定められた区域。

市民公園制度

市民公園条例で定められた制度で、神社仏閣の境内地、遊休地等を公園的に利用する目的で、地元住民が設置者及び管理者となり、行政が遊具等の助成並びに活動に対する支援を行う制度。

市民農園

レクリエーションや生きがいづくり、体験学習などの多様な目的で、小面積の農地を利用して野菜や花を育てるための農園のこと。

市民緑地認定制度

緑地やオープンスペースが不足している地域において、企業や個人が所有する土地や空き地等を有効活用し、地域住民の活動の場となる公的な機能を有する緑地空間（オープンスペース）を創出する制度。

住区基幹公園

都市公園法に基づき、徒步圏内に居住する人々の日常的な利用を目的とした都市公園分類の1つ。住区を計画単位としたもので、住区基幹公園には、街区公園・近隣公園・地区公園がある。

植栽樹

歩道などの地面に設けられる、街路樹等を植栽するための区画のこと。

水源かん養

水源を保ち、河川の流量を調節などの森林の機能の一つ。雨水を土壤等に蓄えるため、水資源の確保や水害防止に役立つ。現在、600 万 ha 以上の森林が水源かん養保安林として指定されている。

戦災復興土地区画整理

第二次世界大戦の神戸大空襲で被害を受けた市街地の再建を目的とし、灘区や東灘区などで行われた事業。

(た行)

治山砂防事業

森林の維持管理と砂防えん堤等の整備により、土砂災害から人命・財産を守るための事業。

DID（人口集中）地区

人口集中地区=Densely Inhabited District の頭文字をとったもの。国勢調査に基づいて設定される統計上の地区で、人口密度が 4,000 人/km² 以上の地域を指す。

デジタルトランスフォーメーション（DX）

デジタル技術を活用してビジネスや社会のあり方を根本的に変革する取り組み。

特別緑地保全地区

都市緑地法に規定されている地区で、都市における良好な自然環境となる緑地において、建築行為など一定の行為の制限などにより現状凍結的に保全する地区。

都市緑地法

都市公園法その他の都市における自然的環境の整備を目的とする法律と相まって、良好な都市環境の形成を図ることに関する法律。

(な行)

ネイチャーポジティブ

生物多様性の損失を食い止め、回復軌道に乗せること。

(は行)

人と自然との共生ゾーン

良好な営農環境、生活環境及び自然環境の整備、保全及び活用を行うとともに、農業の振興、農村の活性化、農村を魅力あるものにすること及び農村における市民相互のふれあいを進めるべき区域。「人と自然との共生ゾーンの指定等に関する条例」に基づき指定。

プレーパーク

従来の公園のイメージである既成のブランコ、スベリ台、鉄棒などがあるような遊び場と違い、一見無秩序のように見えて、子供たちが想像力で工夫して、遊びを作り出すことのできる遊び場、東京都世田谷区の羽根木プレーパークがオープンして、この言葉が日本でも広く知られるようになった。子供の安全の確保のために指導員を置いたりすることもある。

保水性舗装

舗装体内に水分を保水し、その水分が蒸発する際の気化熱によって路面温度の上昇を抑える舗装。

(ま行)

まちの美緑花ボランティア制度

公園などの身近な公共空間を愛着もって管理することにより、まちの美化と地域コミュニティの形成を促進することを目的に、地域住民等によって結成されたボランティア団体に対する神戸市の助成制度。

みどりの聖域

「緑地の保全・育成及び市民利用に関する条例*」に基づき、市街化調整区域内の緑地を守るために指定した区域(約 15,200ha)。重要度に応じて「緑地の保存区域」、「緑地の保全区域」、「緑地の育成区域」を指定。

森守ボランティア

放置されていることで荒廃し本来の機能を発揮しにくくなっている森林を、健全な（本来の機能を発揮する）森林に回復させ、維持しようとする一般市民の団体。

(ら行)

Living Nature Kobe

緑の基本計画に沿って、まちづくりにサステナビリティの考えを積極的に推進するため2021年に策定したみどりと花のブランド戦略。

緑陰効果

街路樹や公園樹などによる緑陰が強い日差しを遮ることで、地表面の温度を低く抑える効果。

緑被率

ある地域又は地区における、樹木や草地、田畠といった緑で覆われた土地が占める面積の割合。

神戸市みどりの基本計画 2050（施策編）

2026年●月改定

目次

第1章 はじめに	3
1.1 はじめに	3
1.2 施策編の構成	3
第2章 施策の展開	4
2.1 里地里山・森林の保全・育成・活用の取り組み	4
施策 1-1 緑の法令・条例に基づく保全・育成	5
施策 1-2 適切な森林の管理	6
施策 1-3 災害に強い森づくりの推進	7
施策 1-4 森林レクリエーション環境の充実	8
施策 1-5 循環型の里地里山・森林の再生	9
施策 1-6 都市農村交流の環境づくり	10
2.2 まちの緑や公園・街路樹を有効に活用する取り組み	11
1) ニュータウンを含む郊外部の緑の空間づくり	12
施策 2-1-1 メリハリをつけた緑の管理	12
2) 既成市街地と都心部における魅力的な緑の空間づくり	13
施策 2-2-1 水と緑のネットワークづくり	13
施策 2-2-2 既成市街地の緑の保全・育成と緑化推進	14
施策 2-2-3 神戸の顔となる都心部の魅力向上	15
3) ウォーターフロントの魅力向上	16
施策 2-3-1 ウォーターフロントの魅力向上	16
4) 安全・安心で何度も行きたくなる魅力的な公園・緑地づくり	17
施策 2-4-1 公園施設の適切な保全と更新	17
施策 2-4-2 地域に愛される身近な公園の充実	19
施策 2-4-3 神戸の魅力を高め、安全を守る大規模公園	21
施策 2-4-4 公園・緑地の防災・減災対策	23
5) 街路樹や公園樹による緑豊かで風格のあるまちなみづくり	24
施策 2-5-1 街路樹や公園樹の健全な育成と管理、更新	24
2.3 多様な主体とともにみどりを支える取り組み	26
施策 3-1-1 みどりの活動参加へのきっかけづくり	27
施策 3-1-2 持続的な仕組みづくり	28
施策 3-1-3 みどりを支える取り組み	30
第3章 緑化重点地区と緑地保全配慮地区	31
3.1 緑化重点地区	31
3.2 緑地保全配慮地区	33
第4章 用語解説	35
4.1 用語解説	35

第1章 はじめに

1.1 はじめに

- ・神戸市では、都市緑地法第4条に基づき、緑地の保全や緑化の推進、都市公園の整備などに関する、基本理念やみどりの将来像、施策、目標などを示す「神戸市みどりの基本計画」を改定しました。
- ・本計画は、「基本理念」や「将来像」等を示した「本編」と、詳細な「施策」等を示した「施策編」の2部構成としており、この施策編では本編で示した施策の具体的な内容を記載しています。
- ・これらの施策を実施し、本計画で示した理念である「緑と共に生き続ける都市＝緑生都市」の実現に向けて取り組みを進めていきます。

1.2 施策編の構成

- ・本編では、下記の3つの観点から施策の具体例を示しています。
 - 里地里山・森林の保全・育成・活用に取り組みます
 - まちの緑や公園・街路樹を有効に活用します
 - 多様な主体とともにみどりを支えます
- ・施策編では、この3つの観点から整理した施策について、神戸市が実施していくより具体的な内容について第2章に記載します。
- ・また、第3章以降については、重点的な緑化を行う地区や緑地の保全を配慮する地区のほか、本編や施策編を補足する用語解説を記載します。

第2章 施策の展開

2.1 里地里山・森林の保全・育成・活用の取り組み

神戸の郊外部には、農業等の営みによって持続する里地里山や、植林によって再生した六甲山をはじめとする森林エリアが広がり、緑と共に生きてきた人々の努力によって築き上げられた、緑豊かな自然環境が広がっています。

これらの緑は、人々の生活に豊かな恵みをもたらし、自然災害から暮らしを守るなど、神戸のまちの基盤となっています。

しかし、社会経済情勢が変化し、緑に求められる効果の重要性が増している中、農村地域の人口減少や高齢化、生活様式の変化により、農業等の営みの継続が難しくなってきていることや、里地里山・森林の管理の担い手が不足し荒廃が進んでいることなど、様々な課題が顕在化しています。

これらを踏まえ、「森の未来都市神戸」の実現に向けて、郊外部に広がる里地里山や、六甲山系や帝釈・丹生山系などの森林を保全・育成・活用し、市民のくらしや自然環境、美しい景観を維持していきます。



北区の田園風景



再度公園



六甲山での登山風景



紅葉の様子 (森林植物園)

施策 1-1 緑の法令・条例に基づく保全・育成

神戸市では、六甲山系や帝釈・丹生山系などの緑の基盤となる森林や緑地を、「緑地の保全、育成及び市民利用に関する条例」に基づき、一定の行為の制限や適正な維持管理を行い、適宜、区域の追加や見直しを行いながら、「みどりの聖域」として将来にわたって適切に保全・育成していきます。

○緑の条例に基づく森林の保全・育成

- ・緑地の保存・保全・育成区域内では、緑地に影響を及ぼす行為について、条例に基づいた指導や一定の行為制限を行います。また、緑地の育成や市民利用を推進するため、植林やベンチなど市民が利用できる施設整備に支援を行います。

○「みどりの聖域」の指定区域見直し

- ・新たに市街化調整区域になった区域では、必要に応じて指定区域の拡大を図るとともに、既存区域についても実態に合わせて再評価を行い、区域を見直します。

○特別緑地保全地区の指定

- ・特に重要な森林や緑地については、都市計画において「特別緑地保全地区」を定め、建築物の新築や木竹の伐採などの行為を許可制とすることにより、その良好な自然環境を保全し、適切な管理に努めます。

○自然公園法による利用増進と保護

- ・瀬戸内海国立公園六甲地域においては、国と連携しながら国立公園の利用増進を図るとともに、自然公園法による木竹の伐採や建築物の新築などの規制により、自然環境を保護します。

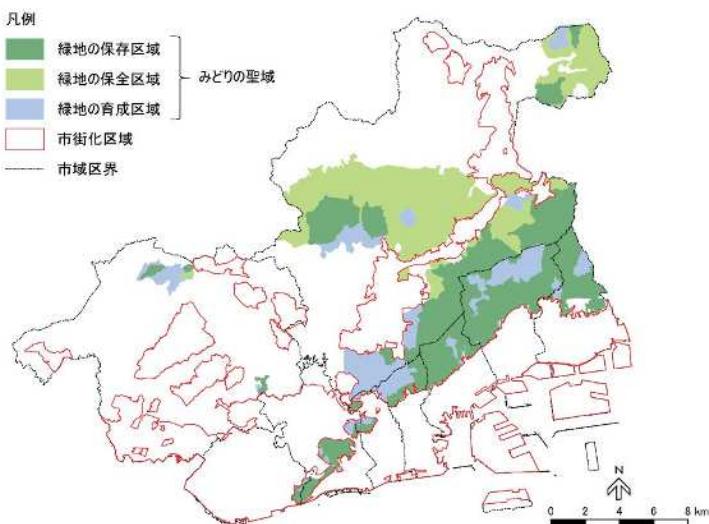


図 2.1 みどりの聖域（2025 年）

施策 1-2 適切な森林の管理

六甲山は約 120 年前の 1902 年から水源かん養と砂防を目的とした植林事業を始め、これまでに 1,000 万本以上の苗木が植林されました。今では一見豊かな山に見えますが、時間の経過とともに、森の手入れが十分に行き届かない場所で森林の荒廃が進んでいます。

のことから、六甲山をはじめとする森林を健全な状態で次世代にも引き継いでいくため、「神戸里山再生戦略」(2025 年) や「こうべ森林整備戦略」(2026 年) 等に基づいて、適切な森林の管理を実施します。

○適切な森林の管理の推進

- ・神戸市の市有林は、伐採による樹林の更新など、適切な森林の管理を行います。
- ・国や兵庫県が持つ公有林では、各所有者が進める整備情報の共有など、連携を図ります。
- ・個人や地域団体、企業等が持つ民有林では、森林環境譲与税を活用した里山整備支援事業や市民の森といった市の助成制度、兵庫県の県民緑税の活用など、所有者が行う森林整備を支援します。
- ・ナラ枯れや松枯れなどの病害虫の予防と被害木の迅速な処理に取り組みます。
- ・ニセアカシアやオオバヤシャブシなどの外来種を適切に伐採し、コナラやアベマキなど、従来から自生していた在来種への転換を図っていきます。
- ・落葉広葉樹を主体とした明るい森を目指し、適切な森林整備を推進することで、防災・減災機能が発揮されるとともに、観光・登山の基盤、神戸らしい都市景観、豊かな生物多様性の保全などを図ります。
- ・2050 年までのカーボンニュートラルの実現に向け、カーボンクレジット制度の活用により、温室効果ガスを吸収する里山や森林の価値を高めます。

○森林のある都市公園の管理の推進

- ・森林植物園や再度公園、布引公園、郊外部にある緑地など、森林のある都市公園において、樹林整備などの適切な管理を行うとともに、自然体験学習などの場としても活用します。



カシノナガキクイムシによるナラ枯れ



里山保全活動（キーナの森）

施策 1-3 災害に強い森づくりの推進

国や兵庫県と連携して進めてきた、治山砂防事業や六甲山系グリーンベルト整備事業に引き続き取り組み、土砂災害に対する安全性を高め、災害に強い森づくりを推進していきます。

また、住宅地や道路、鉄道などの重要な施設に近接する緑地については、都市計画において特別緑地保全地区を定め、良好な自然環境を保全するとともに、森林や緑地がもつ機能を維持増進する観点から、計画的な樹木の更新により適切に管理します。

○市街地に面する斜面の対策

- ・土砂災害の発生を防止し、災害の拡大を防止することを目的に、国や兵庫県とともに急傾斜地崩壊対策や防災意識の啓発など、治山砂防事業に取り組んでいきます。
- ・六甲山系南麓部の市街地に面した斜面については、都市計画において「防砂の施設」を定め、国や兵庫県により公有地化を図るとともに、砂防工事や森林整備を行う「六甲山系グリーンベルト整備事業」を推進します。

○災害に強い森づくりの推進

- ・災害に強く、森林が災害の原因とならないという観点から、様々な高さの樹木や下草がバランスよく生え、樹齢や樹種が多様な森林を目指して適切に管理し、土壌の安定化を図ります。
- ・住宅地や道路、鉄道などの重要な施設に近接する特別緑地保全地区においては、適切な保全を行うとともに、計画的な樹木の更新に取り組み、緑地の機能維持増進を図ります。



図 2.2 特別緑地保全地区（2025 年）

施策 1-4 森林レクリエーション環境の充実

神戸は近代登山発祥の地であり、神戸の山々は「毎日登山」に代表されるレクリエーションの場として、市民に日常的に親しまれてきました。

安全で快適な森林レクリエーション環境を充実させるため、登山道等の適切な維持補修や道標、案内板の設置による安全確保、眺望の向上を図り、神戸の登山文化の魅力を広く発信します。

森林レクリエーションの中核となる大規模公園については、個々の魅力を磨くとともに、相互に連携を図り、ネットワークを強化することで、魅力を高めます。

○安全で快適な登山道等の整備

- ・登山道の維持補修や道標、案内板の設置により、安全で快適な登山道等にするとともに、毎日登山者や登山道等の森守ボランティア等の協力を得ながら美化に取り組みます。

○眺望の向上

- ・観光施設や登山道、各種ドライブウェイ沿いの展望台などにおいて、眺望を阻害する樹木の剪定や伐採を実施することで眺望の向上を図ります。

○六甲山の登山文化の魅力発信

- ・市内外や訪日外国人旅行者等の来訪者が、神戸の登山を気軽に楽しめるよう、わかりやすい案内図や多言語による表記に努めるほか、新神戸駅構内のトレイルステーション神戸や諏訪山公園内の旧花と緑のまち推進センターを活用した「すわやまガーデン」など、登山支援拠点の整備に努めるとともに、神戸の登山文化の魅力や「神戸登山プロジェクト」の取り組みを広く発信します。
- ・国の名勝に指定された再度山にある「永久植生保存地」や「再度公園」、同公園内の「神戸外国人墓地」においては、六甲山の植林の歴史や神戸の居留外国人との関係など、神戸が持つ歴史文化を発信していきます。

○大規模公園の魅力向上

- ・六甲山系に位置する大規模公園である森林植物園や再度公園、布引公園等においては、「ここにしかない風景」や「体験」を磨き、相互に連携を図り、ネットワークを強化することで、六甲山の自然を気軽に体験できるなど、魅力を高めます。
- ・多様な主体の協力のもと、森林植物園等で地形を活かしたマウンテンバイクのコース整備し、神戸の山や森林に親しむレクリエーションの魅力を高めます。



道標・案内板の設置



トレイルステーション神戸

施策 1-5 循環型の里地里山・森林の再生

里地里山・森林は、人々が農業を営む中で田畠、水路やため池等を管理し、樹木を燃料として利用するなど、持続可能な形で利用され、維持されてきた自然環境です。

しかし、近年、農村地域の人口減少や高齢化、生活様式の変化により、耕作放棄地や手入れが行き届かない森林の増加、竹林の拡大、外来生物の侵入など、様々な課題が顕在化しています。

里地里山・森林の再生に向けては、「神戸里山再生戦略」や「こうべ森林整備戦略」に基づき、伐採材を活用する資源循環を伴いながら適切に管理していくことで、農地や森林が持つ多様な機能を発揮させていくとともに、人材の確保や地域が取り組む活動を支援するなど、持続可能な里地里山・森林の形成に取り組みます。

○里地里山・森林の再生

- ・「神戸里山再生戦略」に基づき、都市からは人的資源や資金等が、里山からは木材や農産物、学びの機会等が循環する双方向の関係をつくり、この循環を持続可能にしていきます。
- ・里地里山・森林や竹林の管理においては、「神戸里山再生戦略」や「こうべ森林整備戦略」に基づき、適切に伐採・更新し、伐採材を資源として活用する循環的な利用によって、健全な里地里山・森林を維持します。
- ・里地里山の再生を担う人材確保に向けて、「神戸ネクストファーマー制度」による農業の担い手づくりや、「農村定住促進コーディネーター」による里山暮らしの推進などに取り組み、多様な主体が関われる環境づくりを行います。
- ・「こうべ森の学校」などの市民参加の森づくりや「企業の森づくり」など、市民や団体、企業等が行う活動と連携します。

○里地里山・森林の管理活動への支援

- ・放置竹林や荒廃による環境悪化を防ぐため、里地里山や森林の管理あたっては、補助金による活動支援などの取り組みを行います。

○多様な機能の保全

- ・里地里山・森林を健全な状態で維持・管理することで、農地や森林が持つ水源かん養の機能や、多様な生物の生息環境の維持といった、多様な機能を保全します。

○樹木の病害虫や外来生物、有害鳥獣の防除、拡大抑制

- ・カシノナガキクイムシ、クビアカツヤカミキリ、マツノザイセンチュウなど樹木に影響を与える昆虫や線虫等を防除し、拡大の抑制に努めます。
- ・従来の生態系や農業、生活環境にも影響を与える恐れのあるアライグマ等の外来生物や、ニホンジカ、イノシシ等の有害鳥獣への対策を行います。

施策 1-6 都市農村交流の環境づくり

西北神地域では、里地里山を中心に「人と自然との共生ゾーンの指定等に関する条例」に基づき、人と自然との共生ゾーンを指定し、地域住民の参画と協働による里づくりや農業の振興、秩序ある土地利用、農村景観の保全などが進められています。

これらを基に、都市農村交流の活性化を図り、持続的な緑の保全・活用につなげていきます。

○田園地域におけるコミュニティ拠点の整備促進

- ・田園地域のコミュニティ形成や活性化に資する、地域住民の交流やスポーツ、レクリエーションの拠点となる公園の整備を、地域との協働により引き続き進めます。

○緑豊かな里づくりの推進

- ・田園環境や農村文化、社寺林などの地域の歴史資源について、その地域の特性に応じた地域主体による適切な保全と活用を進めます。

○里地里山の保全活用に向けた環境整備

- ・里地里山での生物多様性保全活動を持続的に推進するため、多くの人が活動に参加しやすい環境づくりを進めます。
- ・「自然共生サイト」に認定された里地里山に整備した「KOB E 里山自然共生センター」を、現地での管理・保全などの活動や、来訪者の見学・体験イベントの拠点として活用します。

○里山や遊休農地を活用したイベントの開催や交流の促進

- ・北区や西区の里づくりを実施する地区や、須磨区多井畠西地区など、里山の手入れや耕作放棄地を活用し、体験プログラムや農業体験などのイベントを通じて、里地里山への関心や保全への意識を高め、市民と農業を営む地域住民 NPO、企業、専門家等との交流を促進します。



押部谷町公園



KOB E 里山自然共生センター

2.2 まちの緑や公園・街路樹を有効に活用する取り組み

神戸には、新たなまちづくりが行われたニュータウンを含む郊外部や、三宮を中心とする都心、既成市街地、ウォーターフロントなど、まちの成り立ちが異なる様々な地域が存在しています。

郊外部では、住宅地とともに計画的に配置された公園・緑地や街路樹、住宅敷地内の豊かな緑が、既成市街地では、古くから市街地の形成に合わせ、市民の生活とともに育まれてきた緑が、ウォーターフロントでは、新たなにぎわいの創出に伴って生み出された緑があるなど、各エリアで特徴のある緑の空間が存在します。

また、都市における緑やオープンスペースは、緊急時の避難場所や雨水の浸透による水害被害の軽減、土砂災害の防止や抑制などの防災・減災の機能のほか、気温の上昇を緩和する効果や温室効果ガスの吸収源など、様々な効果を発揮します。

しかし、近年、管理が不足することによる公園・緑地の樹林の荒廃や魅力の低下、気候変動による自然災害の激甚化、公園施設の老朽化や樹木の大木化・老木化など、様々な課題が顕在化しています。

これらを踏まえ、それぞれの地域に合致した緑の空間づくりに取り組み、公園や街路樹を有効に活用していくことで、安全・安心で快適なまちづくりを目指していきます。

また、まちのにぎわいの中心となり、神戸の顔となる都心部では、都心・三宮再整備の取り組みとともに更なる緑化を進め、ウォーターフロントにおいては、貴重な自然環境や歴史・文化を保全しながら、新たなにぎわいや緑の創出に取り組みを進めます。



再整備後の東遊園地



こうべ木陰プロジェクト

1) ニュータウンを含む郊外部の緑の空間づくり

施策 2-1-1 メリハリをつけた緑の管理

ニュータウンを含む郊外部では、周辺に広がる六甲山系等の自然環境に近接し、計画的に配置された公園・緑地や街路樹等により、緑豊かな環境が形成されています。

これまで、画一的に公園・緑地や街路樹を整備してきましたが、整備から年数が経ち、また人口減少などの社会経済情勢が変化する中で、大木化・老木化や周辺の緑との重複、安全や景観上の問題が生じている街路樹、利用頻度が少ない公園・緑地など、課題が顕在化しています。

これらの緑豊かな地域では、地域の歴史・文化の象徴である社寺林等を適切に保全するとともに、車の往来や歩行者が多い幹線道路、多くの人が集まる公園・緑地等で、引き続き適切に緑の管理を進めていく一方、効果の低い街路樹や公園樹、公園施設については適正化を図るなど、メリハリをつけた緑の管理を行います。

○メリハリのある緑の管理の推進

- ・市民の木・市民の森制度の活用などにより、地域の歴史・文化の象徴となる社寺林等を適切に保全します。
- ・大木化・老木化している街路樹については、安全点検を行った上で適切に伐採や更新を行います。また、周辺の緑との重複や過密化、交通の支障、生育不良など、安全や景観上の問題が生じている街路樹などについては伐採を行うなど、歴史性や緑の機能などに留意しながら、適正化を図ります。
- ・利用頻度が低下した公園・緑地については、施設の縮小や周辺ニーズに合った公園施設に見直すなど、適正化を進めるとともに、公園内のスペースを区切って活用する「オープンレンタルスペース」の実証実験や、市民農園として利用する「こうべ菜園プロジェクト」の取り組みなど、新たな活用方法を検討します。



腐朽した樹木



オープンレンタルスペース
(つくしが丘公園)

2) 既成市街地と都心部における魅力的な緑の空間づくり

施策 2-2-1 水と緑のネットワークづくり

神戸には、六甲山系をはじめとする森林や郊外部に広がる里地里山、市街地の公園・緑地、ウォーターフロントなど、拠点となる緑と、山と海をつなぐ河川緑地軸やまちをつなぐ街路緑地軸等があり、ネットワークを形成しています。

これらの拠点となる緑や、河川沿いの公園・緑地、街路樹等を適切に保全・育成することで、快適な都市環境を保全し、潤いが感じられる景観を生む水と緑のネットワークを形成します。

○水と緑のネットワークの強化

- ・里地里山や森林、公園・緑地、ウォーターフロントなどの拠点となる空間と、それらをつなぐ河川沿いの公園・緑地で形成される河川緑地軸や、街路樹等による街路緑地軸を適切に保全・育成することで、水と緑のネットワークを形成し、強化します。
- ・六甲山南麓の主要6河川（住吉川、石屋川、都賀川、生田川、新湊川、妙法寺川）及び河川沿いの公園と街路樹による水と緑のネットワークの形成により、風の道を確保します。
- ・都市公園に加え、神社仏閣の緑や市民公園、民有地の公開空地等、様々なオープンスペースも含め、ネットワークを補完し、快適に歩けるまちづくりを推進していきます。



図 2.3 水と緑のネットワーク図

施策 2-2-2 既成市街地の緑の保全・育成と緑化推進

既成市街地には、まとまった緑が少ないものの、市民の生活とともに育まれてきた公園・緑地や街路樹、歴史や文化にゆかりのある大木、社寺林、ウォーターフロントなど、多様な緑があります。

これら既存の緑については、適切に保全・育成していくとともに、高温常態化対策に資する質の高い緑の空間づくりを進め、「森の未来都市神戸」の実現に向けて緑化を推進します。

○緑の多様な機能の活用

- ・災害時の家屋の倒壊防止による道路の安全確保や、景観を向上させる機能、土壤に雨水を浸透させることで雨水流出を抑制するグリーンインフラとしての機能など、緑の多様な機能を活用した整備を推進します。

○緑の保全・育成と緑化推進

- ・六甲山南麓の既成市街地では、六甲山から離れるほど緑被率が少なくなることから、緑被率の少ない都心部や南側（海側）の地域において、緑化を進めます。
- ・高温常態化対策に有効なまちの緑を増やすため、土壤改良による樹木の生長促進や、新たな樹木の植栽、樹冠の拡大など、まちの木陰を増やす「こうべ木陰プロジェクト」を推進します。
- ・保水性舗装や竹チップ舗装、土系舗装といった熱がこもりにくい舗装なども活用し、人にとって心地の良い空間になることに加え、土壤の保水力が高まり、樹木の根の伸長にも優しい快適な環境を創出します。
- ・地域の歴史的・文化的な資産となる大木や社寺林等を保全するため、市民の木・市民の森制度を活用し、維持管理等の助成を行います。
- ・歩行者空間の緑陰に寄与している樹木の周知を行い、樹木の価値向上に努めます。
- ・都市計画法に定められる地域地区の一つである風致地区内では、「風致地区内における建築等の規制に関する条例」に基づき、自然環境の保全と開発の調和を図りながら、地区内に残る緑や住宅地の緑を保全し、地区内の景観を維持します。
- ・市民公園制度や市民緑地認定制度、まちなか活用空地制度等により、民有地を活用したオープンスペースを創出するとともに、空き地についても、兵庫県の「県民まちなみ緑化事業」を活用するなど、緑化を推進します。
- ・住宅の庭木や、市民花壇制度による飾花、駅前などの人が多く集まる場所でのスポンサー花壇など、個人や地域団体、企業等が管理する緑を活かし、市民の花であるアジサイや各区の花なども活用しながら、特徴のある美しい景観を形成します。
- ・壁面緑化や屋上緑化を効果的に整備・誘導し、多様な主体とも連携しながら、緑豊かなまちなみ景観の形成を目指します。
- ・気候変動対策や Well-Being の向上等に資する、民間事業者等による良質な緑地確保の取り組みに対し、緑地の質・量の観点から国が評価・認定する「優良緑地確保計画認定制度（TSUNAG）」の活用を促し、民間事業者等と連携した緑化を推進します。

施策 2-2-3 神戸の顔となる都心部の魅力向上

三宮周辺地区は、市民をはじめ来街者を迎える神戸の顔となる中心部として、新たなまちづくりが進められています。

都心部においては、市民をはじめ企業等とも連携しながら、神戸の中心に相応しい魅力的で高質な緑化を進めます。

○都心部の緑の高質化

- ・来街者が多い都心三宮などを中心に、魅力と活気あふれるまちにしていくため、市民や事業者と協働しながら、回遊性を高めるための緑陰空間の形成等の緑化に取り組みます。
- ・東遊園地や磯上公園、神戸震災復興記念公園（みなとのもり公園）など、都心部の公園を連携させながら、市民や事業者との協働によるイベント等の開催など、にぎわいのある空間を創出します。
- ・三宮周辺地区やフラワーロード、北野地区、旧居留地など多くの人が訪れる場所では、「花のプロムナード」や「スポンサー花壇」など、花を活かした景観づくりに取り組みます。

○神戸らしい景観を眺める視点場の確保

- ・神戸の特徴である海辺の景観や、六甲山の景観などを快適に眺めることができるよう、視点場となるオープンスペースを確保します。

○Living Nature Kobe の取り組み

- ・2021年に三宮から始まった、神戸らしい自然を感じ、持続可能な「自然の景」を活かしたみどりと花のブランディングの取り組みである「Living Nature Kobe」について、都心部での拡充とともに、駅前など市内全域に展開していきます。



Living Nature Kobe（東遊園地）



スponサー花壇（フラワーロード）

3) ウォーターフロントの魅力向上

施策 2-3-1 ウォーターフロントの魅力向上

海岸部に残る貴重な自然環境や歴史・文化を保全しながら、再開発が進む都心のウォーターフロントやポートアイランド等の人工島などでは、多くの人でぎわう空間づくりを行い、ウォーターフロントエリアの魅力向上を図っていきます。

○緑豊かでにぎわいのあるウォーターフロントの形成

- ・再開発が進む都心のウォーターフロントにおいては、新設されたアリーナや「TOTTEI PARK（トップティパーク）」、メリケンパーク等の港湾緑地などのオープンスペースをネットワーク化し、海と自然が感じられる魅力的なウォーターフロントを形成します。
- ・京橋の船溜まりを埋め立て、ウォーターフロントのエントランスとして新たな緑地を整備し、回遊性を高め、にぎわいを創出します。
- ・ポートアイランドでは、島全体の再生として「ポートアイランド・リボーンプロジェクト」に取り組み、埋め立て地であることを考慮した樹木育成のための土壌改良を行い、中央緑地軸の緑化を進め、緑豊かな滞在空間を創出します。
- ・須磨海岸や須磨海浜公園等のオープンスペースでは、海水浴やスポーツ・レクリエーション等の利活用、にぎわい空間づくりを推進します。

○歴史・文化を活かした景観の保全

- ・須磨海岸や舞子海岸周辺の公園・緑地などでは、美しい松林や砂浜を保全し、白砂青松の景観を維持するとともに、近代の別荘文化や文学、和歌の舞台となった歴史を活かします。



京橋船溜まりの将来像イメージ

4) 安全・安心で何度でも行きなくなる魅力的な公園・緑地づくり

施策 2-4-1 公園施設の適切な保全と更新

公園・緑地は、誰もが安全で安心して、快適に利用できることが求められます。

このため、公園・緑地については、市民等とも連携して適切に維持管理を進め、公園施設の専門的な安全点検を定期的に実施するとともに、適宜、対策を講じていく必要があります。また、老朽化等に起因する事故が起きないよう、長寿命化計画や建築物保全計画に基づき、適切に改築更新を行い、改築更新に際しては、地域ニーズ等も踏まえながら再整備を行います。

公園施設の改修にあたっては、誰もが使いやすい公園とするために、公園内のバリアフリー化を推進するほか、インクルーシブの観点を踏まえた施設へのリニューアルを進めます。

また、防犯対策として、植栽管理や公園施設の配置の見直しなどを進めます。

○公園・緑地の魅力向上

- ・社会経済情勢の変化や多様なニーズに柔軟に対応し、まちづくりの視点や防災の視点、公園・地域の価値向上といった様々な観点から施設整備を行い、魅力向上に取り組みます。
- ・民間事業者の参画により効果が得られる公園については、指定管理者制度や PFI 制度、公募設置管理制度(Park-PFI 制度)などの制度を活用し、民間事業者のノウハウも活かしながら、公園の魅力向上を図ります。
- ・人流データなどのデジタル技術による公園の利用状況などのデータ活用により、公園利用者の利便性の向上や管理運営の効率化につなげます。
- ・公園・緑地においては、効果的に樹木を植栽するとともに、熱がこもりにくく保水力の高い保水性舗装や竹チップ舗装などの採用、日影をつくる休憩施設やシェード、クールミスト、クールベンチなどの涼感を得られる施設など、夏場の暑い季節でも快適で居心地の良い空間の整備を推進します。

○公園施設の改築更新

- ・人口減少を踏まえ、人が集まる公園・緑地では公園施設の充実を図り、利用頻度が低下し、効果の低い公園施設は簡素化や撤去を行うなど、メリハリをつけた整備をします。
- ・老朽化した公園施設は、施設ごとの老朽度合いや安全点検の結果、長寿命化計画や建築物保全計画に基づいて、適切に改築更新を実施します。また、公園内の橋梁については、道路法に準じた橋梁定期点検に基づき、適切な補修や架け替え等を実施します。
- ・改築更新に際しては、ワークショップやアンケート等で地域のニーズを確認しながら、より魅力的な施設となるよう再整備を行います。

○誰もが使いやすい公園の整備

- ・公園施設のバリアフリー化や、インクルーシブ遊具の導入、健康増進に資する施設の整備など、誰もが使いやすい公園となるよう整備を進めます。

○長寿命化計画の改定

- ・現在定めている長寿命化計画については、公園施設の老朽度合いや公園の整備・再整備にあわせて、適切に改定を行います。

○公園・緑地の適切な維持管理

- ・自動草刈機やドローンなど、新たな技術を取り入れながら、効率的な公園・緑地等の管理運営を進めます。
- ・公園施設については、年4回の施設点検に加えて専門的な安全点検も定期的に実施し、必要な措置を講ずることで事故等を未然に防ぎます。
- ・まちの美緑花ボランティア等と連携しながら、日常的な点検を行います。
- ・LINEや道路公園110番など、市民からの通報システムの周知を進め、安心安全な公園づくりに役立てます。

○防犯に配慮した公園づくり

- ・公園において、視認性を高めるための植栽管理や施設配置の工夫などを進め、周辺状況等に応じて防犯カメラも設置するとともに、まちの美緑花ボランティアをはじめとする地域コミュニティによる活動を支援し、防犯に配慮した公園づくりを推進します。



公園施設の安全点検



インクルーシブ遊具（しあわせの村）



Park-PFI制度活用事例（東遊園地）



クールベンチ（磯上公園）

施策 2-4-2 地域に愛される身近な公園の充実

地域に身近な公園が、多くの人に利用され、愛着を持ってもらうためには、社会経済情勢や多様なニーズに応えられるよう公園機能を充実させていく必要があります。

地域のニーズに応じた公園の整備や再整備にあたっては、ワークショップ等による地域の意向や特性を反映し、多様な世代が利用しやすい魅力ある公園にしていきます。

また、利用頻度が低下した公園・緑地等については、活用方法を検討しながら、地域の実情に合わせた公園の機能再編などに取り組みます。

さらに、長期にわたり整備されていない都市計画公園は、適宜見直しを図ります。

○身近な公園の魅力の向上

- ・公園の種別や規模にかかわらず、鉄道駅に近いことや、区民まつり等の地域の交流場所であること、観光地となっている等の観点から、にぎわいを創出し、まちづくりの核となる公園を「拠点公園」に位置づけ、多様なニーズに対応しながら魅力向上に取り組みます。
- ・拠点公園の整備に際しては、地域の交流やイベント等の場づくりや、子どもや子育て世代にとって魅力的な遊び場づくり、市民の健康づくりのサポートが出来る環境整備など、多様な世代でにぎわう公園としていきます。
- ・公園・緑地の整備や再整備にあたっては、規模や形状などの特色を活かしながら、ワークショップやアンケート等による地域ニーズの反映や、民間事業者のノウハウを取り入れるなど、魅力的にぎわいのある公園づくりに取り組みます。

○歩いて行ける公園・緑地等の確保

- ・身近な公園の整備にあたっては、一時避難地としての防災機能を考慮し、歩いて行けるコミュニティの単位である小学校区をベースに、歩いて行ける範囲(250m圏域)で1人当たり1m²以上の公園・緑地の確保を目指します。
- ・公園・緑地が不足する地域においては、民有地での市民公園制度や、国が認定を行う市民緑地認定制度等により、防災に資するオープンスペースの創出を検討します。
- ・密集市街地では、災害時に防災活動の場となる「まちなか活用空地」の確保を進めます。

○外遊びがしやすい公園づくり

- ・「ボール遊び・できること」看板や防球フェンス、バスケットゴールなど、子どもが自由にボール遊びが出来る環境を整備します。
- ・子どもが安心して自由に遊ぶことができるよう、様々な公園で行われているプレーパークを支援するほか、子どもの居場所となる施設の整備や、遊びを提供する人材の育成など、外遊びがしやすい環境づくりを進めます。

○地域の特性に応じた公園の機能再編

- ・近くに複数の公園がある場合は、公園同士を連携して利用できるように機能を分担します。
- ・身近な公園の再整備に際しては、公園の機能を地域の特性に応じて取捨選択し、地域のニーズにあった施設を整備するとともに、施設の簡素化・撤去など、公園機能の再編を行います。

- ・オールドニュータウンの再編や団地のリノベーション等、まちの再編に関する事業と連携しながら、公園の再編・再整備についての取り組みを進めます。

○公園・緑地等の適正化と新たな活用方法の検討

- ・利用頻度が低下した公園・緑地等については、施設の適正化を進めるとともに、地域の意見を反映しながら、新たな活用方法を検討します。

○長期未整備公園の見直し

- ・長期にわたり未整備となっている都市計画公園については、「身近な都市計画公園における見直し方針」や、今後検討していく大規模公園における都市計画区域の見直し方針を踏まえ、地域との合意を図りながら見直しを進めます。



拠点公園再整備（湊川公園）



拠点公園再整備（ポートアイランド南公園）



ボール遊びできること看板



バスケットゴールの設置（神楽公園）

施策 2-4-3 神戸の魅力を高め、安全を守る大規模公園

神戸市には、六甲山系の一翼を担い貴重な自然環境を形成する公園、市街地においてレクリエーションや観光、学びの拠点となっている公園、郊外のニュータウンや、丘陵・田園においてスポーツや里山活動の拠点となっている公園など、様々な性格を有した大規模公園が配置されています。これらの大規模公園は、その特性にあわせた機能を最大限に活かし、神戸の魅力を高める拠点として活用することが重要です。

このような大規模公園においては、それぞれが有する豊かな自然とオープンスペースを活かすことで、公園の価値や魅力の向上を図ります。

○神戸における大規模公園

- ・神戸には約 1,700 の公園がありますが、市内全域からの利用に加え、国内外からも利用される公園として、下図及び表の 18 公園を大規模公園と位置付けています。



図 2.4 対象公園の位置図

	公園名称
1	須磨浦公園
2	再度公園
3	森林植物園
4	相楽園
5	王子公園
6	海浜公園
7	須磨寺公園
8	離宮公園
9	奥須磨公園
10	布引公園
11	神戸青少年公園
12	神戸総合運動公園
13	しあわせの村
14	高塚公園
15	垂水健康公園
16	北神戸田園スポーツ公園
17	神戸震災復興記念公園
18	キーナの森

表2.1 対象公園

○大規模公園の魅力の向上

- ・大規模公園は、市街地や観光地、自然豊かな場所など様々な場所に設置されているため、その立地特性に応じた魅力を発揮できるような公園づくりを進めます。
- ・社会経済情勢の変化や多様なニーズに柔軟に対応し、まちづくりの視点や公園・地域の価値向上といった様々な観点から施設整備を行い、魅力向上に取り組みます。その際には、サウンディングによる市場調査や実証実験等により、市民のニーズや事業者の意見を把握します。

- ・にぎわい創出や観光集客の拠点となる大規模公園については、民間事業者のノウハウを取り入れながら、公園の魅力や価値を高めます。
- ・大規模公園は、社会経済情勢の変化を的確にとらえ、豊かな自然とオープンスペースといった強みを活かし、持続可能で魅力的な市民の財産として磨きをかけていく必要があります。「未来へ継承する資産」、「柔軟に使いこなせる資産」、「まちに開かれた資産」として、価値のさらなる向上につながる整備・再整備を行います。
- ・王子公園については、再整備基本計画に基づき、新たに広場空間を創出するとともに、動物園やスポーツ施設など公園施設のリニューアルに取り組みます。
- ・神戸市西区にある市有遊休地である旧玉津健康福祉ゾーンにおいて、新たな都市公園の整備に取り組みます。

○災害時に拠点となる大規模公園

- ・神戸市地域防災計画において広域防災拠点に位置付けられ、災害時に防災拠点となる大規模公園では、危機管理部局とも連携しながら、防災機能を確保します。

○市内外の大規模公園との連携

- ・神戸市内には国が管理するあいな里山公園（国営明石海峡公園神戸地区）や、兵庫県が管理する県立舞子公園など、大規模公園が複数あるため、国や兵庫県と協力し、公園同士の連携を図りながら、より魅力的な公園づくりを進めます。



Park-PFI 制度活用事例（海浜公園）

施策 2-4-4 公園・緑地の防災・減災対策

公園・緑地は、地域の防災拠点として、緊急時の避難場所や救援拠点など様々な役割を果たすとともに、防災訓練の場として地域の防災力向上にも寄与します。

また、近年、気候変動による自然災害の激甚化や、南海トラフ地震等の巨大地震への備え、雨水流出の抑制など、防災・減災の役割も求められています。

これらのことから、これまでの地震防災への対応に加え、グリーンインフラの視点も取り入れた公園・緑地等の防災・減災機能を充実させます。

○グリーンインフラを活かした公園整備や防災・減災機能の充実

- ・グリーンインフラを活かした公園・緑地の整備や再整備を行い、雨水流出抑制や暑熱対策、生物多様性など、緑が身近にある環境づくりに取り組みます。
- ・防災拠点となる公園・緑地では、備蓄倉庫や耐震性貯水槽、マンホールトイレやかまどベンチ等の防災施設を整備するなど、防災機能の充実を図ります。
- ・雨水貯留施設や雨庭などの雨水流出を抑制する施設、土壤の改善、保水性舗装等による保水力の向上など、グリーンインフラを活かした防災・減災の取り組みを進めます。

○公園・緑地における法面防災対策

- ・土砂災害対策が必要な法面については、周辺住民や利用者の安全を確保するため、適切に実施していきます。また、将来的に倒木の危険性が高い法面の樹木については、伐採を行うなど、適切に管理します。

○市民と取り組む防災活動の推進

- ・防災施設を有する公園・緑地においては、平時から定期的な防災訓練を実施することで緊急時に備えるとともに、防災意識の向上や地域コミュニティの醸成に繋げます。

○災害の記憶を残すモニュメント等の保存

- ・東遊園地の「慰靈と復興のモニュメント」や「阪神・淡路大震災 1.17 のつどい」など、各地に残るモニュメントや追悼の催し等を適切に保存、継承し、災害の記憶を発信・共有していきます。



樹林の更新（新神戸駅の背山）



阪神・淡路大震災 1.17 のつどい（東遊園）

5) 街路樹や公園樹による緑豊かで風格のあるまちなみづくり

施策 2-5-1 街路樹や公園樹の健全な育成と管理、更新

神戸市では、1971年から始まった「グリーンコウベ作戦」など、公園・緑地や街路樹などの緑を増やす取り組みを進めてきました。一方、整備後40年以上が経過した街路樹や公園・緑地が増加し、街路樹や公園樹の大木化、老木化が進み、更新の時期を迎えています。

そのため、街路樹や公園樹の安全の確保に向けて、土壌改良などの健全な育成に向けた生育環境の充実に加えて、街路樹再整備方針や国からの通達等に基づき、適切な維持管理を行って高質化を図るとともに、大木化・老木化した樹木や交通の支障、民有地に影響を及ぼす樹木などは適切に伐採を行い、更新を進めます。

○街路樹等の適正化

- ・大木化・老木化や、周辺の緑との重複や過密化、交通の支障、生育不良など、安全や景観上の問題が生じている街路樹や、道路・民有地に影響を及ぼす公園樹については、伐採を行います。
- ・雑草による景観の悪化や、通行の支障など管理上の問題が生じている植栽帯について、撤去・舗装を行います。

○緑の高質化

- ・緑豊かで風格のあるまちなみの形成や、緑の持つ特徴を活かした高温常態化対策として、人が滞留する場所などを中心に、植樹による木陰づくりを進めます。
- ・街路樹は、周辺が締固められて根の生育に支障があるとともに、アスファルトからの輻射熱などの環境圧が高いため、広がりのある植栽枠や根系誘導耐圧基盤の整備など、健全に生育できる環境改善を進めます。
- ・神戸の土壌は、硬化しやすく養分の乏しい真砂土や、粘土質である神戸層群など、樹木の生育には土壌条件が厳しいため、適切な土壌改良を行い、樹木の生育環境を整えます。

○街路樹等の安全対策

- ・外観では判断が難しい内部の腐朽による倒木事故が増えてきているため、外観点検に加え、検査棒を用いた根元の腐朽確認の点検などを行い、適切な管理や伐採・更新を行います。

○健全な維持管理

- ・街路樹については、樹種や道路特性に応じた維持管理を行うとともに、包括的な管理を行うことで、植栽帯の環境向上を進めます。
- ・都心部や観光地、幹線道路など、来街者や人の往来が多い道路については、剪定士の活用など質の高い管理を行います。
- ・伐採した街路樹や公園樹は、活用が可能な場合は資源として有効に活用します。
- ・公園・緑地の樹林は、適切に管理、伐採し、安全で快適な樹林環境に整備します。

○外来生物の防除、拡大抑制

- ・カシノナガキクイムシ、クビアカツヤカミキリなど樹木に影響を与える昆虫などの外来生物等を防除し、拡大の抑制に努めます。



街路樹点検



クビアカツヤカミキリ

2.3 多様な主体とともにみどりを支える取り組み

神戸には、里地里山や森林、ニュータウンを含む郊外部、既成市街地、ウォーターフロントなど、多様な緑が存在し、市民に加え多様な主体がみどりの活動を行っています。

これらのみどりをさらに発展させ、神戸のみどりをより良くしていくためには、行政が関与する公有地をはじめ、民有地も含めた緑を、個人や団体、企業など多様な主体で支え、持続可能にしていくことが重要です。

これらを踏まえ、多くの人が神戸のみどりを知り、持続的なみどりの活動を行い、多様な主体で支えていく取り組みを行っていきます。



公園利活用の社会実験イベント
(観音山公園)



菜園プロジェクト
(生田町公園)

施策 3-1-1 みどりの活動参加へのきっかけづくり

神戸では、これまで市民との協働で、里地里山・森林の手入れや、公園・緑地、花壇の管理など、人とみどりが深く関わり合いながら、みどりを育んできました。

緑とともに生き続ける都市を目指していくためには、市民をはじめ多様な主体がみどりを知り、愛着や誇りを持ってもらうことが大切です。

そのため、今後も積極的にみどりの魅力を情報発信・共有し、みどりを知り、触れる機会を創出することで、みどりに関わるきっかけをつくります。

○みどりの魅力に関する情報の発信・共有

- ・公園・緑地等のみどりの魅力や取り組み、里地里山や森林に関する取り組みなど、ホームページやSNSなど様々な媒体を用いて市民や多様な主体に積極的に情報を発信・共有し、神戸のみどりを知る機会を増やします。
- ・シンポジウムや市民講座など、みどりに関する情報を直接的に知る機会を創出します。
- ・神戸のみどりに愛着を持つ市民等を増やし、みどりに関する市民等からの情報発信につなげていきます。

○みどりに関わる機会づくり

- ・里地里山や森林、公園・緑地等の活動に気軽に参加できるメニューを充実させることで、みどりに関心を持ち、関わる人を増やします。
- ・公園・緑地の管理や里地里山・森林の保全への意識啓発を図るため、公園のことを考える公園ミーティングや、子どもが自然に触れて自由に遊べるプレーパーク、森の手入れや自然観察が出来る森の学校、市民農園など、みどりと触れ合える場を創出します。

○子どもや青少年の育成

- ・神戸を担う子どもや青少年がみどりに関心を持ち、愛着を持ってもらうために、学校等とも連携しながら、公園・緑地でのイベントや里地里山・森林での体験学習など、みどりを知り、触れあえる機会を創出します。また、青少年にとって関心の高いバスケットボールやスケートボード、ダンスなど、多様な活動を行うため、公園等を活用した居場所づくりや、企画・運営に主体的に関われる環境づくりに取り組みます。



自然観察会イベント



森林の整備体験

施策 3-1-2 持続的な仕組みづくり

里地里山・森林を将来にわたって健全に保全し、公園・緑地を良好に管理運営していくためには、市民との協働に加え、多様な主体との連携が重要です。

また、みどりの活動に多様な人材が関わり、それぞれの持つ経験やノウハウを活かすことで、良好な環境の維持に加え、利活用の促進にもつながります。

そのため、里地里山・森林や公園・緑地における活動に参画しやすい環境づくりや、みどりに関わる人材を発掘・育成し、持続的にみどりの活動ができる仕組みづくりに取り組みます。

○持続的なみどりの活動につながる仕組みづくり

- ・公園・緑地については、「まちの美緑花ボランティア」や「公園清掃ボランティア」により、市民とともに公園・緑地の管理に取り組むとともに、多様な世代や民間事業者などの多様な主体がみどりの活動に参加しやすい仕組みを拡充します。
- ・里地里山・森林や公園・緑地を地域住民が主体的に管理することで、参加者間の交流機会が生まれ、地域コミュニティの醸成につながり、継続的な活動につなげます。
- ・ボール遊びなど、公園内の禁止行為を少なくし、利用しやすい公園づくりを目指すため、利用者や地元住民と合意形成を図り、地域主体による公園利用のルール作りを進め、子どもが外遊びしやすい環境をつくります。
- ・公園・緑地でのイベント等が気軽に実施できるよう、手続きの柔軟な運用を進めます。

○みどりに関わる人材の発掘・育成

- ・「まちの美緑花ボランティア」や「こうべ森の学校」、市民農園など、みどりの活動を通じて、みどりに関わる人材を発掘・育成します。
- ・ファシリテーター等の中間支援技術者やプレーリーダーなど、多様な技術やノウハウを持つ市民の参画を促し、人材の活用を推進します。
- ・里地里山・森林の管理に取り組める人材を育成するため、「KOBE 里山自然共生センター」を保全や管理の活動や、体験イベントの拠点として活用します。

○多様な主体による資源の循環利用

- ・里地里山・森林や公園・緑地の管理の過程で発生する伐採材や剪定枝等の資源の有効活用に向けて、「こうべ森と木のプラットフォーム」や「地域おこし協力隊」など、多様な主体と連携し、資源の循環が持続的に行える仕組みをつくります。
- ・用材や薪、備長炭、公共施設の木質化など、活用方法を幅広く検討します。
- ・神戸産の木材等に関するブランド「KOBE WOOD」を広く普及させ、価値向上を図ります。
- ・しあわせの村内の発生材等を保管する木材ストックヤードの機能を強化します。
- ・神戸産のカシ類を活用した KOBE 備長炭製造の事業化に向けて取り組みます。



KOBE 備長炭



木材ストックヤード（しあわせの村）



KOBE 里山自然共生センター



KOBE WOOD

施策 3-1-3 みどりを支える取り組み

神戸には里地里山・森林や公園・緑地、街路樹、住宅の庭木など、多様な緑が存在し、多様な主体がみどりの活動を行っています。

これらのみどりを維持し、よりよいみどりにしていくために、みどりに関わりやすい環境づくりを進めながら、多様な主体と連携し一体となってみどりを支えます。

○多様な主体で支えるみどり

- ・公園の管理運営を行う「まちの美緑花ボランティア」など、緑の活動に参加するボランティア間や、企業等との連携プラットフォームである「神戸緑縁座」など、みどりを支えている多様な主体間が交流できる場を創出し、相互のコミュニケーションを深めることで、活動への意欲の向上や多様化、技術の向上等を図ります。
- ・スポンサー花壇や寄付、社会貢献活動など、様々なみどりへの関わり方があることから、市民や団体、企業等との多様なパートナーシップ関係を構築し、多様な主体とともにみどりに関する取り組みを進め、みどりを支えます。



ワークショップ（神戸緑縁座）

第3章 緑化重点地区と緑地保全配慮地区

3.1 緑化重点地区

- ・緑化重点地区とは、都市緑地法において「緑の基本計画」の中で定める「重点的に緑化の推進に配慮を加えるべき地区」のことです。
- ・緑化重点地区は、緑化の方向性や手法などについてのプランを定め、緑化を重点的に推進することにより、緑の基本計画がめざすものをモデル的に具現化し、都市全体への波及を図ることを目的としています。

(1) 緑化重点地区の指定

- ・神戸市では、緑の基本計画の基本理念である「緑生都市」をモデル的に具現化し、緑化意識の向上を促すために、重点的に緑地の保全や緑化を行う「緑化重点地区」を、市内に 11 地区指定します。
- ・地区指定にあたっては、まちづくりの顔となる地区や開発により緑地が少ないところで緑化を推進すべき地区、優良な緑地を保全育成する地区等を対象とします。

(2) 地区の方向性について

- ・市内 11 地区の緑化重点地区の方向性を以下のとおり示します。

①本庄地区

子どもと家族を応援し、地域の交流を深める花と緑によるコミュニティ拠点づくり

②住吉川・御影地区

河川を骨格とした、歴史・文化を活かした花と緑による憧憬のまちなみ形成（しょうかれい）

③都賀川地区

山手から海岸部の魅力資源をつなぐ都賀川を骨格とした水と緑のネットワークの形成

④都心地区

まちとみどりをつなぎ、神戸の顔となる花と緑のシンボル景観の形成

⑤新湊川地区

河川と運河を骨格とし、地域資源を活かした緑と花による豊かな生活環境の形成

⑥鈴蘭台・谷上地区

周辺の里山環境と調和した花と緑によるコミュニティづくり

⑦北神地区

農村とニュータウンの連携及び公園や里山等の活用による地域コミュニティの場づくりの推進

⑧須磨地区

海と緑が調和した美しい景観と質の高い緑豊かな住環境の形成

⑨垂水地区

花と緑によるコミュニティづくりと魅力ある海辺空間の形成

⑩玉津・伊川谷地区

生物生息環境に配慮した緑地や河川空間の形成と秩序あるまちなみ景観づくりの推進

⑪西神地区

農村とニュータウンの連携及び公園・緑地や河川空間などの活用による地域コミュニティの場づくりの推進

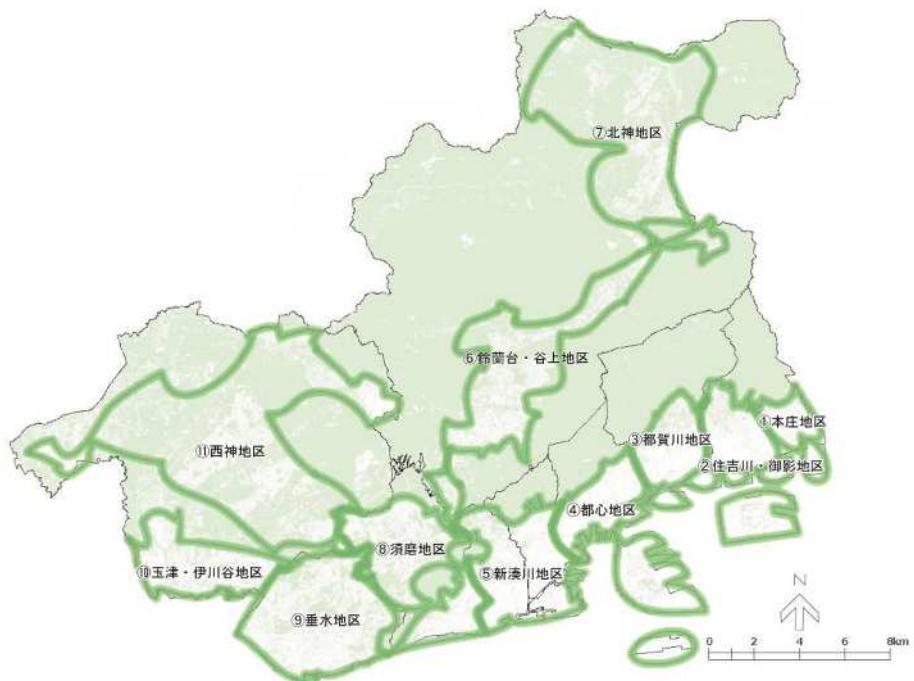


図 3.1 緑化重点地区位置

3.2 緑地保全配慮地区

- ・緑地保全配慮地区とは、都市緑地法の中で緑の基本計画の策定項目として定める「特別緑地保全地区以外の区域であって重点的に緑地の保全に配慮を加えるべき地区」のことです。

（1）緑地保全配慮地区の指定の検討

- ・神戸市では、特別緑地保全地区をはじめ、条例による「みどりの聖域」など、多くの緑地保全エリアが存在しますが、それらのほとんどは市街化調整区域に指定されています。
- ・一方、市街化区域においても、既成市街地の社寺林や屋敷林、郊外部の良好に緑化された住宅地などが多く存在し、これらは都市における環境形成に大きな役割を果たしています。
- ・そこで、緑の保全に配慮したまちづくりが望まれる市街化区域内の地域を候補地として抽出し、地域特性を考慮しながら緑地保全配慮地区の指定を検討します。

（2）緑地保全配慮地区の候補地

- ・市街化区域において、風致・景観の保全、都市環境の保全等の観点から重要となる地域として、以下の要件から緑地保全配慮地区の候補地を抽出します。

- ・抽出の要件

- 社寺林、屋敷林等の緑が多く点在し、背景となる六甲山系の緑と連なり、良好な風致景観を保全する必要がある地区。
- 住宅地やその周辺の緑が良好に保全され、緑被率が高く、人口定着が進み、良好な緑のまちなみを維持する必要がある地区。
- 市街化区域内で概ね 10ha を超える規模があり、中に一団の緑を含み、今後緑に配慮したまちづくりを進めていく必要がある地区。

- ・候補地の抽出

上記の要件から 8 地区を緑地保全配慮地区候補地として検討します。

東部山手地区、西部山手地区、有野・唐櫃地区、鈴蘭台周辺地区

名谷周辺地区、垂水西部地区、押部谷周辺地区、多井畠・下畠周辺地区

（3）保全施策のイメージ

- ・今後、緑地保全配慮地区を指定した地区については、以下の保全施策を実施していきます。
- 規模の大きな社寺林や屋敷林または小規模でも沿道景観を形成する上でポイントとなる緑、地域住民が里山活動に取り組む周辺緑地等については、市民の木、市民の森等の制度を活用して保全・活用を推進します。

- 都市景観形成地域等、景観保全のための制度導入を検討します。また、まちづくり協定などの制度を活用し、緑をまもり育てることをはじめとした地域のルール作りを働きかけていきます。
- 住宅地においては、まちの緑を誇りに思っていただけるよう、意識の啓発に努めます。

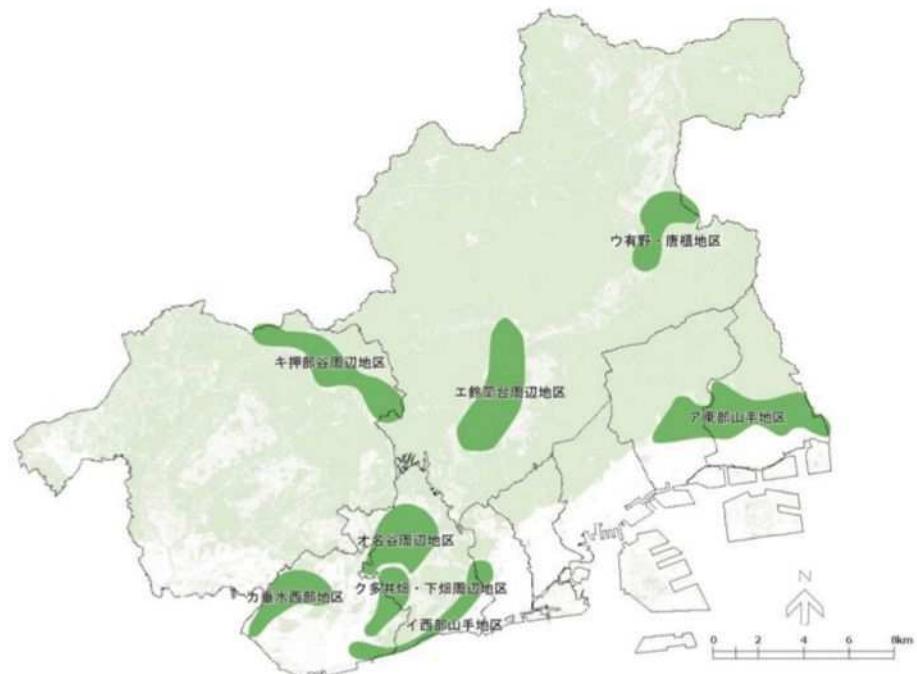


図 3.2 緑地保全配慮地区候補地

第4章 用語解説

4.1 用語解説

(あ行)

雨庭

地上に降った雨水を下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる構造をもった植栽空間。

インクルーシブ遊具

障がいの有無、年齢、性別、国籍などに問わらず、誰もが一緒に安全に楽しめるように設計された遊具。

一時避難地

地震や火災などの災害発生時に、身の安全を確保するために一時的に避難する場所。

ウォーターフロント

水辺の土地の意味だが、都市整備の観点からは、新たな開発区域としての港湾・臨海部を指して使用される。

永久植栽保存地

1902年、再度公園の広場から修法が原池の対岸に望む再度山（標高470メートル）の北斜面を水源涵養・砂防を主目的として六甲山の緑化に着手。その後、1974年、国際植生学会日本大会の現地見学会が再度山で開催されたことをきっかけに、神戸市ではこの森の一部を「再度山永久植栽保存地」に指定、以後5年ごとに植生や土壤の変化を調査・記録し、六甲山系の緑の管理や育成に活かしている。

オープンスペース

公園や広場、河川、湖沼、山林、農地等の建築物によって覆われていない土地の総称。都市内では、建築物の敷地内に確保された開放性の高いまとまった広さの空地や空間で、一般市民が自由に通行又は利用できる場所をいう。

オープンレンタルスペース

公園の新たな関わりを創出することを目的にした事業。公園内あまり使われていない範囲を柵で囲い、利用者がメニューを選択し自由に使用できるスペースを設置する取組み。

オールドニュータウン

高度経済成長期に開発されたニュータウンが、住民の高齢化、人口減少、施設の老朽化などが進んだ状態。

(か行)

カーボンクレジット

二酸化炭素などの温室効果ガス排出量の見通しと実際の排出量の差をクレジットとして認証して取引できるようにしたもの。

カーボンニュートラル

温室効果ガスの「排出量」と「吸収量」を差し引きゼロにすること。

風の道

既成市街地において、海や山からの涼しい空気の通り道となる河川や街路の沿線一帯。

かまどベンチ

通常はベンチとして使用し、災害時に座板を外すことで炊き出し用かまどとして利用できるベンチ。

企業の森づくり

企業が社会貢献活動の一環として、自治体などと協定を結び、森林の整備・保全を行う活動。

クールベンチ

異常高温対策の一環として、半導体を利用し、ベンチを”ひんやり”させる神戸高専が開発した特別なベンチ。

グリーンコウベ作戦

1971年から神戸市が展開した、市街地の緑化を推進し、街路樹の数を飛躍的に増加させた緑化推進運動。

グリーンベルト整備事業

市街地に隣接する山麓斜面などに樹林帯（グリーンベルト）を形成し、土砂災害を防ぎながら、無秩序な市街地拡大を防止し、都市環境や景観を保全する事業。

グリーンインフラ

自然の機能を活用して社会の課題を解決するためのインフラ整備の考え方。

県民縁税

豊かな緑を次の世代に引き継いでいくため、県民共通の財産である「緑」の保全・再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む。兵庫県の仕組み。

広域防災拠点

大規模災害発生時に、ヘリコプターを含め大規模な支援部隊の集結場所や全国からの支援物資の集積場所となるほか、災害医療活動の拠点になる場所。

公園ミーティング

神戸市内各区で活動する地域コーディネーターが協力して、公園を地域の交流拠点として活かすためのイベント。

公園清掃ボランティア

まちの美化と健全な地域コミュニティの育成を目的に、身近な公共空間である公園などの日常的なお世話をしていただくために結成された市民ボランティアグループ。

KOBE WOOD

神戸の森林・里山・まちを未来につなぐことを目的として、神戸市内の森林管理や都市整備で搬出された自然資源の活用を促進するため、神戸産の木材等に関するブランド。

こうべ木陰プロジェクト

神戸市が猛暑対策として、六甲山の木を都心部に移植したり、既存の街路樹の土壌改良を行ったりすることで、街中に木陰を増やしていくプロジェクト。

こうべ菜園プロジェクト

公園の新たな関わりを創出することを目的にした事業。公園内あまり使われていない場所に市民農園（分区園）を設置し、公園利用者を増やす取組み。

神戸里山再生戦略

現代の里山に「新たな価値」を見出し、「新たな循環」を創出することで、持続可能な里山の姿を描いています。市民、企業、NPO、大学など多様な主体と協働し、健全な里山を次世代に受け継ぐための戦略。

こうべ森林整備戦略

六甲山の森林の多様な機能を最大限に引き出すための長期的な管理計画。

神戸登山プロジェクト

まちと山が近い神戸では、昔から登山が親しまれてきました。新型コロナウイルス禍に端を発したライフスタイルの変化や SDGs の考え方方が広まり、「自然に回帰した余暇の過ごし方」が注目され、登山を楽しむ方が増えています。一方で、登山を充分に楽しむ環境が整っていないため、神戸の登山をより楽しんでもらえるよう 2023 年度から立ち上げたプロジェクト。

神戸ネクストファーマー制度

これまで農業に参入するには研修機関等で 1 年間の農業研修に専念しなければなりませんでしたが、働きながらでも可能な短時間の農業研修（合計 100 時間程度）を受けることで 100 平方メートル～1,000 平方メートル未満の小規模な農地を借りることができるようになる制度。

KOBE 備長炭

神戸市内の里山で採取したカシの木などの原木を原料に、神戸市が試作した備長炭。

こうべ森と木のプラットフォーム

森や木に関する課題解決や新しい社会の創出に向けて、地域の森林に関わる・関わりたいと思う方が出会い、意見交換を行う場。

こうべ森の学校

再度公園と周辺の市有林で森の整備活動をするボランティアグループ。

公募設置管理制度(Park-PFI 制度)

都市公園の魅力と利便性の向上を図るために、公園の整備を行う民間の事業者を公募し選定する制度。

根系誘導耐圧基盤

舗装の強度を保ちつつ、樹木の根が健全に生育できる隙間も確保した特別な土壌基盤のこと。

(さ行)

サウンディング

地方公共団体が所有する土地や施設の活用方法について、民間の事業者から広くアイデアや意見を聞き、民間事業者の参入意欲を高めるもの。

里山支援事業

人と自然との共生ゾーン区域内の里山林で、竹林や雑木林などの森林整備（伐採、間伐）に取り組む地元団体に活動費等を補助することで、里山林の整備を支援する事業。

市街化区域

既に市街地を形成している区域及びおおむね 10 年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域。

市街化調整区域

都市計画法に基づき、無秩序な市街化を防ぎ、自然環境や農地を保全するために定められた区域。

自然共生サイト

「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を、環境省が 2023 年より認定している区域。

自然公園法

優れた自然の風景地を保護し、同時にその利用の増進を図ることで、国民の保健・休養・教化に資するとともに、生物の多様性の確保に貢献することを目的とした法律。この法律に基づき、国立公園、国定公園、都道府県立自然公園が指定されている。

指定管理者制度

多様化する住民ニーズに対応するため、公の施設の管理に民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上等を図ることを目的に創設された制度。

市民花壇制度

市民公園条例で定められた制度で、神社仏閣の境内地、遊休地等の土地で、公園的に利用する目的で地元住民が設置者及び管理者となり、行政が遊具等の助成並びに活動に対する援助を行う制度。

市民公園

土地所有者の善意に基づき提供された土地を、地域住民が中心となって管理運営する公園のこと。

市民公園制度

市民公園条例で定められた制度で、神社仏閣の境内地、遊休地等の土地で、公園的に利用する目的で地元住民が設置者及び管理者となり、行政が遊具等の助成並びに活動に対する援助を行う制度。

市民農園

レクリエーションや生きがいづくり、生徒・児童の体験学習などの多様な目的で、小面積の農地を利用して野菜や花を育てるための農園のこと。

市民の木・市民の森制度

神戸市が市民の協力のもと、市内に残る歴史的な古木や豊かな森を「市民の木」「市民の森」として指定し、次世代に引き継ぐための貴重な財産として保護・保全する制度。

市民緑地認定制度

緑地やオープンスペースが不足している地域において、企業が所有する土地、個人所有地、空き地等民有地を有効活用し、民間の力により地域住民の活動の場となる公的な機能を有する緑地空間（オープンスペース）を創出する制度。

森林環境贈与税

森林の整備や促進に必要な財源を確保するため、国が市町村や都道府県に譲与する税金。

植栽帯

樹木、草花等を植えるための土壤基盤・花壇等（プランター等を除く）のこと。

植栽樹

歩道などの地面に設けられる、街路樹を植栽するための区画のこと。

水源かん養

水源を保ち育て、河川流量を調節する、森林の機能の一つ。雨水を一時に流出させず、常に一定量をたくわえるので水資源の確保や水害防止に役立つ。

(た行)

竹チップ舗装

放置竹林等の間伐材をチップ状に粉碎し、ウレタン樹脂などの固化材と混ぜて敷きならした舗装材。

治山砂防事業

森林の維持管理と砂防えん堤等の整備により、土砂災害から人命・財産を守るための事業。

中間支援技術者

主にNPOや市民活動団体、行政、企業など多様な主体間の「中間」に立ち、活動の支援や連携・協働のコーディネート（調整役）を行う専門家。

道路公園 110 番

道路・公園に関する問い合わせや通報を一元的に受け付けるセンターのこと。

特別緑地保全地区

都市緑地法に規定されている地区で、都市における良好な自然環境となる緑地において、建築行為など一定の行為の制限などにより現状凍結的に保全する地区。

都市緑地法

都市公園法その他の都市における自然的環境の整備を目的とする法律と相まって、良好な都市環境の形成を図ることに関する法律。

(な行)

農村定住促進コーディネーター

移住希望者から相談を受け、住居や農地の情報を提供し、農村地域の空家や地域の人たちとのマッチングを行い、移住・定住を推進します。また、農村地域にはその地域特有のしきたりやお祭りなどの伝統行事がありますので、移住された方が地域にとけ込めるよう、移住後も相談にのるなどのフォローを行います。

(は行)

花のプロムナード

企業・団体との協働と参画による花とみどりのまちづくりを積極的に推進するため、都心地域のビューポイントにある花壇を「スポンサー花壇」として、企業・団体からの協賛で維持管理をおこなうもの。

人と自然との共生ゾーン

良好な営農環境、生活環境及び自然環境の整備、保全及び活用を行うとともに、農業の振興、農村の活性化、農村を魅力あるものにすること及び農村における市民相互のふれあいを進めるべき区域。「人と自然との共生ゾーンの指定等に関する条例」に基づき指定。

PFI 制度

Private-Finance-Initiative の略。公共事業を実施するための手法の一つ。民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法。

ファシリテーター

会議や議論、研修などの場で、参加者全員が積極的に意見を出し合えるように支援し、議論を円滑に進めて合意形成を促す中立的な進行役のこと。

風致地区

都市計画法に定められる地域地区の一つ。都市の風致を維持するために指定する。指定の対象となる地域は、自然の景勝地、公園、社寺、水辺等の公開の緑地、歴史的・郷土的に意義のある土地、緑豊かな低密度な住宅地など。

輻射熱

物と物が直接触れていなくても遠赤外線の作用により伝わる熱のこと。

プレーパーク

従来の公園のイメージである既成のブランコ、スベリ台、鉄棒などがあるような遊び場と違い、一見無秩序のように見えて、子供たちが想像力で工夫して、遊びを作り出すことのできる遊び場、東京都世田谷区の羽根木プレーパークがオープンして、この言葉が日本でも広く知られるようになった。子供の安全の確保のために指導員を置いたりすることもある。

プレーリーダー

子どもたちがいきいきと遊び場で遊べるように、環境を作ったり、遊びを引き出したりするリーダー。

防砂の施設

土砂災害を防止するための取り組みを行う区域のこと。また、「緑地保全地区」とは、都市の自然環境を守り、無秩序な市街化の防止などに役立つ緑地を保全する区域のこと。

ポートアイランド・リボーンプロジェクト

神戸市が2022年度から進めている、ポートアイランドの活性化を目指すプロジェクトのこと。

保水性舗装

舗装体内に水分を保水し、その水分が蒸発する際の気化熱によって路面温度の上昇を抑える舗装。

(ま行)

まちなか活用空地

地震や火災が起きやすい密集市街地にある空き家や空き地を、平時には地域交流の場やポケットパークとして活用し、災害時には防災活動の拠点として使用するために整備された土地のこと。

まちの美緑花ボランティア制度

公園などの身近な公共空間を愛着もって管理することにより、まちの美化と地域コミュニティの形成を促進することを目的に、地域住民等によって結成されたボランティア団体に対する神戸市の助成制度。

マンホールトイレ

災害時に、下水道管のマンホールの上に簡易な便器や上屋を設置して使用する仮設トイレのこと。

みどりの聖域

「緑地の保全・育成及び市民利用に関する条例」に基づき、市街化調整区域内の緑地を守るために指定した区域(約 15,200ha)。重要度に応じて「緑地の保存区域」、「緑地の保全区域」、「緑地の育成区域」を指定。

森の未来都市神戸

神戸市が 2025 年度から取り組む、「森林・里山の再生」と「まちの緑化」を通じて、自然と共生する持続可能な都市づくりのこと。

森守ボランティア

放置されていることで荒廃し本来の機能を発揮しにくくなっている森林を、健全な（本来の機能を発揮する）森林に回復させ、維持しようとする一般市民の団体。

(や行)

屋敷林

家屋を風、雪、日差しなどから守るために、家の周りに植えられた樹林のこと。

(ら行)

Living Nature Kobe

みどりの基本計画に沿って、まちづくりにサステナビリティの考えを積極的に推進するため 2021 年に策定したみどりと花のブランド戦略。

緑地の保全、育成及び市民利用に関する条例

市街化調整区域内の緑地について、重要度評価に基づき「緑地の保存区域」「緑地の保全区域」「緑地の育成区域」を指定し、区域内での土地の造成や木の伐採などについて一定の制限を行う。なお土地所有者に対しては、緑地の維持管理や市民利用に対する助成制度もある。

緑被率

ある地域又は地区における、樹木や草地、田畠といった緑で覆われた土地が占める面積の割合。